

## 基本計画書

基本計画										
事項	記入欄							備考		
計画の区分	大学院薬学研究科 創薬生命科学専攻の設置									
フリガナ設置者	コリツク'イ'ケル'ゲン'ホ'ヤリツク'イ'ク 公立大学法人 名古屋市立大学									
フリガナ大学の名称	ナゴヤ'シ'リツク'イ'ク 名古屋市立大学 (Nagoya City University)									
大学本部の位置	愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地									
大学の目的	学術の中心として広く知識を授けると共に、深く専門の学術を教授研究し、知的、応用的、能力を展開させ、もって広く社会文化の向上と人類福祉の増進に寄与する。									
新設学部等の目的	広い視野に立って清新な学識を授け、専攻分野における研究能力を始めとする高度な能力を養うものとする。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	大学院薬学研究科 [Graduate School of Pharmaceutical Sciences] 創薬生命科学専攻 [Major in Medicinal and Life Sciences] 計	年	人	年次 人	人	修士 (薬科学)	平成22年4月 第1年次	愛知県名古屋市瑞穂区 田辺通3丁目1番地		
		2	36	-	72			〔基礎となる〕 学部等 薬学部 生命薬科学科		
		計	36	-	72					
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)		該当無し								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
	薬学研究科 創薬生命科学専攻	講義	演習	実験・実習	計					
		27 科目	4 科目	4 科目	35 科目	30 単位				
教員	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等		
	新設	薬学研究科 創薬生命科学専攻(博士前期課程)	教授 人	准教授 人	講師 人	助教 人	計 人	助手 人	兼任 人	
分	計		18 (18)	14 (14)	9 (9)	12 (12)	53 (53)	0 (0)	6 (6)	
組織	既	薬学研究科 創薬生命科学専攻(博士後期課程)	7 (7)	7 (7)	4 (4)	4 (4)	22 (22)	0 (0)	3 (3)	
		薬学研究科 医療機能薬学専攻(博士後期課程)	11 (11)	7 (7)	4 (4)	8 (8)	30 (30)	0 (0)	3 (3)	
		医学研究科 医科学専攻(修士課程)	15 (15)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	20 (20)	0 (0)	0 (0)	
		医学研究科 生体機能・構造医学専攻(博士課程)	14 (14)	16 (16)	18 (18)	46 (46)	94 (94)	0 (0)	9 (9)	
		医学研究科 生体情報・機能制御医学専攻(博士課程)	12 (12)	12 (12)	13 (13)	36 (36)	73 (73)	0 (0)	9 (9)	
		医学研究科 生体防御・総合医学専攻(博士課程)	14 (14)	14 (14)	14 (14)	41 (41)	83 (83)	0 (0)	15 (15)	
		医学研究科 予防・社会医学専攻(博士課程)	4 (4)	3 (3)	4 (4)	3 (3)	14 (14)	0 (0)	2 (2)	
		経済学研究科 経済学専攻(博士前期課程)	13 (13)	9 (9)	1 (1)	0 (0)	23 (23)	3 (3)	8 (8)	
		経済学研究科 経営学専攻(博士前期課程)	11 (11)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	17 (17)	2 (2)	6 (6)	
		経済学研究科 経済学専攻(博士後期課程)	13 (13)	9 (9)	1 (1)	0 (0)	23 (23)	3 (3)	8 (8)	
概要		経済学研究科 経営学専攻(博士後期課程)	11 (11)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	17 (17)	2 (2)	6 (6)	
		人間文化研究科 人間文化専攻(博士前期課程)	28 (28)	18 (18)	0 (0)	0 (0)	46 (46)	1 (1)	0 (0)	
		人間文化研究科 人間文化専攻(博士後期課程)	28 (28)	18 (18)	0 (0)	0 (0)	46 (46)	1 (1)	0 (0)	
		人間文化研究科 人間文化専攻(博士後期課程)	28 (28)	18 (18)	0 (0)	0 (0)	46 (46)	1 (1)	0 (0)	

教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任 教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計		助手
	芸術工学研究科 芸術工学専攻（博士前期課程）		18 (18)	10 (10)	0 (0)	0 (0)	28 (28)	0 (0)	0 (0)
	芸術工学研究科 芸術工学専攻（博士後期課程）		17 (17)	10 (10)	0 (0)	0 (0)	27 (27)	0 (0)	0 (0)
	システム自然科学研究科 生体情報専攻（博士前期課程）		11 (11)	11 (11)	2 (2)	0 (0)	24 (24)	0 (0)	0 (0)
	システム自然科学研究科 生体情報専攻（博士後期課程）		11 (11)	11 (11)	2 (2)	0 (0)	24 (24)	0 (0)	0 (0)
	看護学研究科 看護学専攻（博士前期課程）		9 (9)	7 (7)	5 (5)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	20 (20)
	看護学研究科 看護学専攻（博士後期課程）		9 (9)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	1 (1)
	計		152 (152)	118 (118)	67 (67)	138 (138)	475 (475)	6 (6)	75 (75)
	合計		152 (152)	118 (118)	68 (68)	138 (138)	476 (476)	6 (6)	75 (75)
教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計		
	事 務 職 員		146 人 (146)		70 人 (70)		216 人 (216)		
	技 術 職 員		880 (880)		26 (26)		906 (906)		
	図 書 館 専 門 職 員		9 (9)		6 (6)		15 (15)		
	そ の 他 の 職 員		16 (16)		4 (4)		20 (20)		
計		1,051 (1,051)		106 (106)		1,157 (1,157)			
校 地 等	区 分	専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計		
	校 舎 敷 地	175,598.16 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		0 m <sup>2</sup>		175,598.16 m <sup>2</sup>		
	運 動 場 用 地	26,468.00 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		0 m <sup>2</sup>		26,468.00 m <sup>2</sup>		
	小 計	202,066.16 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		0 m <sup>2</sup>		202,066.16 m <sup>2</sup>		
	そ の 他	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		0 m <sup>2</sup>		0 m <sup>2</sup>		
合 計	202,066.16 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		0 m <sup>2</sup>		202,066.16 m <sup>2</sup>			
校 舎	専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計			
	141,672.43 m <sup>2</sup> (141,672.43 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> (0 m <sup>2</sup> )		0 m <sup>2</sup> (0 m <sup>2</sup> )		141,672.43 m <sup>2</sup> (141,672.43 m <sup>2</sup> )			
教 室 等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設		語学学習施設			
	72 室	116 室	115 室	15 室 (補助職員 0人)		2 室 (補助職員 1人)			
専 任 教 員 研 究 室	新設学部等の名称			室 数					
	薬学研究科 創薬生命科学専攻（博士前期課程）			4 1 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点		
	薬学研究科 創薬生命科学専攻 （博士前期課程）	63,347〔35,305〕 (63,347〔35,305〕)	1,445〔667〕 (1,445〔667〕)	4,380〔3,479〕 (4,380〔3,479〕)	88 (88)	560 (560)	1 (1)		
	計	63,347〔35,305〕 (63,347〔35,305〕)	1,445〔667〕 (1,445〔667〕)	4,380〔3,479〕 (4,380〔3,479〕)	88 (88)	560 (560)	1 (1)		
図 書 館	面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数					
	7,509.01 m <sup>2</sup>	518 席		773,333 冊					
体 育 館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要							
	3,680.94 m <sup>2</sup>	野球グラウンド		テニスコート					
経 費 積 立 方 法 概 要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次
		教員1人当り研究費等		601千円	601千円	-	-	-	-
		共同研究費等		30,700千円	30,700千円	-	-	-	-
		図書購入費	10,347千円	10,347千円	10,347千円	-	-	-	-
	設備購入費	4,705千円	4,705千円	4,705千円	-	-	-	-	
	学生 1人当り 納付金	区分	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		市民	767.8千円	535.8千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	
その他	867.8千円	535.8千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			運営費交付金をもって充当する。						

大学等の名称	名古屋市立大学							
	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
薬学部						1.03		
薬学科	6	60	-	240	学士(薬学)	1.05	平成18年度	愛知県名古屋市瑞穂区田辺通3丁目1番地
生命薬科学科	4	40	-	160	学士(薬科学)	1.00	平成18年度	
医学部						1.00		
医学科	6	92	-	552	学士(医学)	1.00	昭和25年度	愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地
経済学部						1.02		
公共政策学科	4	90	-	270	学士(経済学)	1.01	平成19年度	愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1番地
マネジメント学	4	80	-	240	学士(経営学)	1.02	平成19年度	
会計ファイナンス学	4	60	-	180	学士(経営学)	1.03	平成19年度	
経済学科	4	-	-	-	学士(経済学)	-	昭和39年度	
経営学科	4	-	-	-	学士(経営学)	-	平成3年度	
人文社会学部			3年次			1.10		
人間科学科	4	50	10	220	学士(人間科学)	1.05	平成8年度	愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1番地
現代社会学科	4	50	10	220	学士(現代社会学)	1.09	平成8年度	
国際文科学科	4	55	-	220	学士(国際文科学)	1.16	平成8年度	
芸術工学部						1.05		
デザイン情報学科	4	40	-	160	学士(芸術工学)	1.07	平成17年度	愛知県名古屋市千種区北千種2丁目1番10号
都市環境デザイン学	4	40	-	160	学士(芸術工学)	1.04	平成17年度	
看護学部						1.03		
看護学科	4	80	-	320	学士(看護学)	1.03	平成11年度	愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地
大学等の名称	名古屋市立大学大学院							
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
薬学研究科						0.99		
創薬生命科学専攻(前期課程)	2	40	-	80	修士(薬学)	0.76	平成13年度	愛知県名古屋市瑞穂区田辺通3丁目1番地
創薬生命科学専攻(後期課程)	3	10	-	30	博士(薬学)	0.53	平成13年度	
医療機能薬学専攻(前期課程)	2	32	-	64	修士(薬学)	1.59	平成13年度	
医療機能薬学専攻(後期課程)	3	8	-	24	博士(薬学)	0.75	平成13年度	
医学研究科						0.96		
医科学専攻(修士課程)	2	10	-	20	修士(医科学)	1.25	平成20年度	愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地
生体機能・構造医学専攻(博士課程)	4	15	-	60	博士(医学)	1.16	平成12年度	
生体情報・機能制御医学専攻(博士課程)	4	15	-	60	博士(医学)	0.73	平成12年度	
生体防御・総合医学専攻(博士課程)	4	18	-	72	博士(医学)	1.01	平成12年度	
予防・社会医学専攻(博士課程)	4	4	-	16	博士(医学)	0.43	平成12年度	

経済学科及び経営学科は平成19年4月学生募集を停止、在学生の卒業等を持って廃止予定

既設大学等の状況

学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
経済学研究科						0.90			平成20年4月経済政策分析専攻は経済学専攻に、日本経済経営専攻は経営学専攻に名称を変更し、経済政策分析専攻、日本経済経営専攻は平成20年4月学生募集を停止
経済学専攻（前期課程）	2	20	-	40	修士（経済学）	1.00	平成20年度	愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1番地	
経済学専攻（後期課程）	3	5	-	10	博士（経済学）	0.60	平成20年度		
経営学専攻（前期課程）	2	20	-	40	修士（経済学）	1.12	平成20年度		
経営学専攻（後期課程）	3	5	-	10	博士（経済学）	0.90	平成20年度		
経済政策分析専攻（後期課程）	3	-	-	-	博士（経済学）	-	平成17年度		
日本経済経営専攻（後期課程）	3	-	-	-	博士（経済学）	-	平成17年度		
人間文化研究科						1.50			
人間文化専攻（前期課程）	2	25	-	50	修士（人間文化）	1.52	平成12年度	愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1番地	
人間文化専攻（後期課程）	3	5	-	15	博士（人間文化）	1.46	平成14年度		
芸術工学研究科						0.98			
芸術工学専攻（前期課程）	2	25	-	50	修士（芸術工学）	1.04	平成12年度	愛知県名古屋市千種区北千種2丁目1番10号	
芸術工学専攻（後期課程）	3	5	-	15	博士（芸術工学）	0.80	平成14年度		
システム自然科学研究科						1.15			
生体情報専攻（前期課程）	2	15	-	30	修士（生体情報）	1.46	平成12年度	愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1番地	
生体情報専攻（後期課程）	3	5	-	15	博士（生体情報）	0.53	平成14年度		
看護学研究科						1.03			
看護学専攻（前期課程）	2	24	-	48	修士（看護学）	1.02	平成15年度	愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地	
看護学専攻（後期課程）	3	5	-	15	博士（看護学）	1.06	平成17年度		
附属施設の概要	<p>名称：先端薬学研究施設・共同利用研究施設  目的：研究及び大学院教育  所在地：名古屋市瑞穂区田辺通3丁目1番地  設置年月：平成7年3月  規模等：SRC造6階建、建築面積 1,203.83 m<sup>2</sup>、延床面積 5,430.92 m<sup>2</sup></p> <p>名称：附属病院（名古屋市立大学病院）  目的：高度先進医療の推進、開発を目指すとともに、教育機関として、次世代を担う医療人の育成を図り、また、地域の医療連携の中核病院として医療・学術の発展に貢献すること。  所在地：名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地  設置年月：昭和25年6月  規模等：病棟中央診療棟 竣工 平成15年8月 SRC造地下2階、S造地上17階建  建築面積 5,097.16 m<sup>2</sup>、延床面積 66,614.66 m<sup>2</sup>  外来診療棟 竣工 平成18年12月 SRC造地下1階、S造地上4階建  建築面積 3,458.01 m<sup>2</sup>、延床面積 9,799.28 m<sup>2</sup>  病床数 808床  診療科 27診療科（標榜科）</p>								

別記様式第2号(その2の1)

教育課程等の概要														
(名古屋市立大学 大学院薬学研究科 創薬生命科学専攻)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎科目	創薬生命科学基礎	1・2前前		1					3	4	2	1		兼1
	創薬生命科学基礎	1・2前前		1				4	3	3	3			
	創薬生命科学基礎	1・2前前		1				5	4	1	4		兼1	
	創薬生命科学基礎	1・2前前		1				6	3	3	4			
	小計(4科目)	-	0	4	0	-	-	18	14	9	12	0	兼2	-
専門科目	薬化学分野	薬化学特論	1・2前後	1					1	1	1			兼1
		精密有機反応学特論	1・2前後	1				1	1		1			
		薬品合成化学特論	1・2後前	1					1					
		機能分子構造学特論	1・2後後	1					1	1	1			
	生命分子薬学分野	生体超分子システム解析学特論	1・2前後		1				1	1		1		
		コロイド・高分子物性学特論	1・2前後		1				1		1	1		
		生命分子構造学特論	1・2後後		1					1		1		
		分子生物薬学特論	1・2後後		1				1	1	1			
		薬物送達学特論	1・2前後		1				1					
	薬学分子機能分野	生薬学特論	1・2前後		1				1	1		1		
		生体防御機能学特論	1・2後後		1				1	1		1		
		遺伝情報学特論	1・2後前		1				1	1		1		
		細胞分子薬効解析学特論	1・2前後		1				1	1	1			
		病態生化学特論	1・2前後		1				1			1		
	医療薬学分野	薬物動態制御学特論	1・2後前		1				1	1		1		
		病態解析学特論	1・2前後		1				1	1		1		
		医薬品代謝解析学特論	1・2後後		1				1					
		中枢神経機能薬理学特論	1・2前後		1				1	1		1		
		病院薬剤学特論	1・2後前		1				1		1	1		
		臨床薬学特論	1・2後後		1				1		2			
	融合分野	薬工融合特論科目	1・2前後		1									
		薬工融合特論科目	1・2後後		1									
小計(22科目)	-	0	22	0	-	-	18	14	8	12	0	兼2	-	
特別講義科目	創薬生命科学特別講義	1・2後	2										兼4	オムニバス
	小計(1科目)	-	2	0	0	-	-	0	0	0	0	0	兼4	-
特別演習	医薬化学特別演習	1~2通	8						3	4	2	1		
	生命分子薬学特別演習	1~2通	8					4	3	2	3		兼1	
	医療分子機能薬学特別演習	1~2通	8					5	4	1	4		兼1	
	医療薬学特別演習	1~2通	8					6	3	3	4		兼1	
	小計(4科目)	-	32	0	0	-	-	18	14	8	12	0	兼2	-
特別研究	医薬化学特別研究	1~2通	8						3	4	2	1		
	生命分子薬学特別研究	1~2通	8					4	3	2	3		兼1	
	医療分子機能薬学特別研究	1~2通	8					5	4	1	4		兼1	
	医療薬学特別研究	1~2通	8					6	3	3	4		兼1	
	小計(4科目)	-	32	0	0	-	-	18	14	8	12	0	兼2	-
合計(35科目)		-	66	26	0	-	-	18	14	9	12	0	兼6	-
学位又は称号		修士(薬科学)		学位又は学科の分野				薬学						

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
学生は2学年以上在籍し、上記の科目より合計30単位以上を修得し、かつ修士論文の審査及び最終試験に合格すること。 基礎科目： 2単位以上必修 専門科目： ア 所属する分野の中から主として履修する科目として2単位を選択して修得。その他の分野から8単位以上を修得。 イ 融合分野については、2科目とも履修した場合は、1単位を修了要件としてカウントできる。 特別講義科目： 2単位を必修 特別演習： 所属する分野の特別演習を8単位必修 特別研究： 所属する分野の特別研究を8単位必修	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

注) 配当年次横の略語は以下の開講時期を示す

前前：前期前半期    前後：前期後半期    後前：後期前半期    後後：後期後半期

別紙1 基礎となる学部(生命薬科学科)の教育課程

	授業科目の名称	配当年次	単位数又は時間数			専任教員配置						
			必修	選択	自由	教授	助教授	講師	助手			
授業科目等の概要	薬学部生命薬科学科											
	全学 教養教育科目	テーマ科目	テーマ科目1	1年		2					卒業要件	
			テーマ科目2	1年		2						
			テーマ科目3	1年		2						教養教育科目 39単位
			テーマ科目4	1年		2						(内訳)
			テーマ科目5	1年		2						テーマ科目・共通 教養科目 10単位
			テーマ科目6	1年		2						基礎科目 18単位
			テーマ科目7	1年		2						外国語科目 4単位
			テーマ科目8	1年		2						健康・スポーツ科目 3単位
			テーマ科目9	1年		2						系に関らず 4単位
			テーマ科目10	1年		2						
			テーマ科目11	1年		2						専門教育科目 85単位
			テーマ科目12	1年		2						(内訳)
			テーマ科目13	1年		2						講義・演習(必修) 44単位
			テーマ科目14	1年		2						講義・演習(選択) 19単位
			テーマ科目15	1年		2						基礎実習 12単位
			テーマ科目16	1年		2						卒業研究実習 10単位
			テーマ科目17	1年		2						
			テーマ科目18	1年		2						
			テーマ科目19	1年		2						合計 124単位
			テーマ科目20	1年		2						
			テーマ科目21	1年		2						
	全学 教養教育科目	現代社会の諸相 共通教養科目	日本国憲法	1年		2						
			法学1	1年		2						
			法学2	1年		2						
			現代社会1	1年		2						
			現代社会2	1年		2						
			現代社会3	1年		2						
			経済学1	1年		2						
			経済学2	1年		2						
			経済学3	1年		2						
			経営学	1年		2						
			社会学1	1年		2						
社会学2			1年		2							
社会学3	1年		2									
政治学1	1年		2									
政治学2	1年		2									
政治学3	1年		2									
国際関係論1	1年		2									
国際関係論2	1年		2									

別紙1 基礎となる学部(生命薬科学科)の教育課程

授業科目等の概要	授業科目の名称	配当年次	単位数又は時間数			専任教員配置							
			必修	選択	自由	教授	助教授	講師	助手				
授業科目等の概要	全学教養教育科目	異文化・自文化の理解	文化の理解1	1年		2							
			文化の理解2	1年		2							
			文化の理解3	1年		2							
			文化の理解4	1年		2							
			歴史の認識1	1年		2							
			歴史の認識2	1年		2							
			歴史の認識3	1年		2							
			歴史の認識4	1年		2							
			歴史の認識5	1年		2							
			歴史の認識6	1年		2							
			歴史の認識7	1年		2							
			人類学1	1年		2							
			人類学2	1年		2							
			地理学1	1年		2							
			地理学2	1年		2							
			人間性の探求1	1年		2							
			人間性の探求2	1年		2							
			人間性の探求3	1年		2							
			人間性の探求4	1年		2							
			哲学1	1年		2							
		哲学2	1年		2								
		宗教学	1年		2								
		心理学1	1年		2								
		心理学2	1年		2								
		心理学3	1年		2								
		倫理学1	1年		2								
		倫理学2	1年		2								
		倫理学3	1年		2								
		倫理学4	1年		2								
		自然の認識	自然系広領域1	1年		2							
			自然系広領域2	1年		2							
			自然系広領域3	1年		2							
			自然系広領域4	1年		2							
			自然系広領域5	1年		2							
			自然科学講義1	1年		2							
			自然科学講義2	1年		2							
			自然科学講義3	1年		2							
		自然科学講義4	1年		2								



別紙1 基礎となる学部(生命薬科学科)の教育課程

	授業科目の名称	配当年次	単位数又は時間数			専任教員配置							
			必修	選択	自由	教授	助教授	講師	助手				
授業科目等の概要	基礎科目	物理学	物理学基礎	1年	2								
			物理学基礎	1年	2								
			物理学基礎	1年		2							
			物理学基礎	1年		2							
		化学	基礎化学	1年	2								
			基礎化学	1年	2								
			物理化学	1年		2							
			化学分光学	1年		2							
		生物学	生体分子化学	1年		2							
			基礎生物学	1年	2								
			生物化学	1年	2								
		実験	動物発生学	1年		2							
			植物生命科学	1年		2							
			自然科学実験	1年	1								
	数学	自然科学実験	1年	1									
		微分積分学	1年		2								
		微分積分学	1年		2								
	統計学	線形代数学	1年		2								
		統計学	1年		2								
		情報	計算機概論A	1年		2							
	外国語科目	英語	コミュニケーション英語	1年	1								
			コミュニケーション英語	1年	1								
			総合英語	1年	1								
			上級英語	1年		1							
			上級英語	1年		1							
		未修外国語	カレント・トピックス	1年			1						
			カレント・トピックス	1年			1						
			ドイツ語A	1年		1							
			ドイツ語B	1年		1							
			フランス語A	1年		1							
	未修外国語	フランス語B	1年		1								
		中国語A	1年		1								
		中国語B	1年		1								
(健康・スポーツ科目)	日本語A	1年			1								
	日本語B	1年			1								
(健康・スポーツ科目)	健康・スポーツ科学論(含演習)	1年	2										
	健康・スポーツ実技	1年	1										

別紙1 基礎となる学部(生命薬科学科)の教育課程

授業科目等の概要	授業科目等の概要	授業科目等の概要	授業科目等の概要	授業科目等の概要	単位数又は時間数			専任教員配置				
					必修	選択	自由	教授	助教授	講師	助手	
授業科目等の概要 専門教育科目 基礎薬学科目	薬学概論	2前	2									
	機能形態学	2前	2									
	薬学物理化学 (熱力学、相平衡)	2前	2				1					
	薬学物理化学 (量子・統計力学)	2前	2				1					
	薬学物理化学 (溶液論、界面科学)	2後		2				1				
	構造生物学	2後		2					1			
	薬品分析化学	2前	2									
	機器分析化学	2後		2								
	薬学有機化学 (基礎有機化学)	1後	2							1		
	薬学有機化学 (基本官能基の有機化学)	2前	2									
	薬学有機化学 (カルボニル化合物の有機化学)	2前	2									
	薬学有機化学IV (芳香族化合物の有機化学)	2後	2				1					
	薬学無機化学	2前	1									
	物理分析化学 (有機構造化学)	2後		2								
	薬品製造化学 (生体有機化学)	3前		2								
	薬品合成化学 (多官能性化合物の有機化学)	3前		2								
	薬化学 (薬品有機化学)	3前		2								
	基礎生物化学	1後	2									
	生物薬品化学 (細胞を構成する高分子と分子生物学)	2前	2									
	生物薬品化学 (代謝と生体エネルギー)	2後		2								
	衛生化学 (栄養素とエネルギー代謝、化学物質と毒性)	2前	2									
衛生化学 (食品衛生、環境衛生)	3後		2									
微生物薬品学 (基礎微生物学)	2後	2				1						
微生物薬品学 (応用・病原微生物学)	3前		2				1					

別紙1 基礎となる学部(生命薬科学科)の教育課程

授業科目等の概要	授業科目の名称	配当年次	単位数又は時間数			専任教員配置			
			必修	選択	自由	教授	助教授	講師	助手
授業科目等の概要 専門教育科目 基礎薬学科目	薬用植物学	2前	1						
	生薬学I (生薬学総論と生薬各論)	2後	2						
	生薬学II (天然由来の生理活性化合物)	3前		2					
	医薬品代謝学	3前	2						
	放射医療学	3後		1					
	薬理・毒性学 (薬の効くプロセス)	2後	2						
	薬理・毒性学 (薬の効くプロセス)	3前	2						
	薬理・毒性学 (薬の効くプロセス)	3前		2					
	薬理・毒性学 (薬の効くプロセス)	3後		2					
	薬剤学 (薬物動態の基礎と速度論)	2前	2						
	薬剤学 (薬物動態の生理・分子機構)	3後		2					
	製剤学	2前	2						
	製剤学	3後		2					
	免疫学	3後		2					
	病態生化学	2後	1						
	放射薬品学	3後	1				1		
	医薬品情報学	3前	1						
	医療経済学	3後		1					
	生物統計学	3後		1					
	薬事関連法・制度	3後		1					
薬学英语	2前		1						
薬学英语	2後		1						
薬学英语	3前		1						
薬学英语IV	3後		1						

別紙1 基礎となる学部(生命薬科学科)の教育課程

授業科目等の概要	授業科目の名称	配当年次	単位数又は時間数			専任教員配置				
			必修	選択	自由	教授	助教授	講師	助手	
生命薬科学科	生命有機化学	3後		1						
	医薬品化学	3後		1						
	コロイド・高分子科学	3後		1				1		
	バイオインフォマティクス	3後		1						
	ケミカルバイオロジー	3後		1						
	合成戦略化学	3後		1						
	分子感染症学	3後		1						
	分子薬理学・神経科学	3後		1						
	ドラッグデリバリー論	3後		1						
	創薬科学・知的財産活用論	3後		1						
	分子病態学	3後		1						
	演習科目	薬学情報処理演習	3後		1				1	
		プレゼンテーション演習	3後	1						
		生命薬科学演習	4		2					
	基礎薬学実習科目	物理系実習I (薬品物理化学実習)	2後	1						
		物理系実習II (薬品分析化学実習)	2後	1						
		物理系実習III (生物物理学実習)	2後	1						1
		化学系実習I (基礎有機化学実習)	2後	1						
		化学系実習II (合成化学実習)	2後	1						
		化学系実習III (生薬学・構造化学実習)	2後	1						
		生物系実習I (生化学実習)	3前	1						
		生物系実習II (衛生化学・微生物学実習)	3前	1						1
		生物系実習III (医薬品代謝学実習)	3前	1						
		医療機能系実習I (薬理学実習)	3前	1						
		医療機能系実習II (薬剤学実習)	3前	1						
		医療機能系実習III (製剤学実習)	3前	1						
		卒業研究実習	4	10						

別紙2 既設の大学院薬学研究科(博士前期課程)の教育課程

教育課程等の概要															
(名古屋市立大学 大学院薬学研究科 創薬生命科学専攻 博士前期課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	薬化学分野	薬化学特論	1・2前	2					1	1	1				隔年開講
		精密有機反応学特論	1・2前	2					1	1		1			〃
		薬品合成化学特論	1・2前	2					1	1					〃
		機能分子構造学特論	1・2前	2					1	1	1				〃
	生命分子薬学分野	生体超分子システム解析学特論	1・2前	2					1		1	1			〃
		コロイド・高分子物性学特論	1・2後	2					1	1		1			〃
		生命分子構造学特論	1・2前	2						1		1		兼1	〃
		分子生物薬学特論	1・2前	2					1	1	1				〃
	連携開講科目	薬物送達学特論	1・2後	2					1						〃
		腫瘍制御学特論	1・2後	2										兼2	〃
		超分子システム論	1・2後		2				2	2		1		兼1	〃
		薬物動態・DDS概論	1・2後		2				2	2		2			〃
		超分子構造・物性論	1・2後		2									兼5	〃
		センサーデバイス開発学	1・2後		2				2	3					〃
小計(14科目)		-	0	20	8			8	7	4	4	0	兼9	-	
共通科目	医薬化学	1・2前		2				3	3	1			兼4	隔年開講	
	生命分子薬学	1・2前		2				3	3	1			兼5	〃	
	医療分子機能薬学	1・2前		2				5	2				兼4	〃	
	医療薬学	1・2前		2				4	3	1			兼5	〃	
	小計(4科目)		-	0	8	0			15	11	3	0	0	兼13	-
特別研究	創薬生命科学特別研究	1~2通	8					8	7	4	4		兼1		
	小計(1科目)		-	8				8	7	4	4	0	兼1	-	
特別演習	医薬化学特別演習	1~2通		8				4	4	2	1				
	生命分子薬学特別演習	1~2通		8				4	3	2	3		兼3		
	小計(2科目)		-	0	16	0			8	7	4	4	0	兼3	
合計(21科目)		-	8	44	8			18	14	9	12	0	兼13	-	
学位又は称号		修士(薬学)		学位又は学科の分野			薬学								
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
上記の科目より計30単位以上修得し、かつ修士論文の審査及び最終試験に合格すること 専門科目 ア 分野の中から主として履修する科目として、2単位を修得。 イ 副科目として履修する科目として、所属専攻内から8単位以上を修得。 なお、研究科教授会の許可を得て他専攻の専門科目からも履修できる。 ウ 連携開講科目については、研究会教授会の特別の許可を得た場合、専門科目(副科目)として認定する。 共通科目 : 4単位以上を修得 特別研究 : 8単位を修得 特別演習 : 8単位を修得							1学年の学期区分			2学期					
							1学期の授業期間			15週					
							1時限の授業時間			90分					

別紙2 既設の大学院薬学研究科(博士前期課程)の教育課程

教育課程等の概要															
(名古屋市立大学 大学院薬学研究科 医療機能薬学専攻 博士前期課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	医療分子機能薬学分野	生薬学特論	1・2後	2					1	1		1			隔年開講
		生体防御機能学特論	1・2前	2					1	1		1			〃
		遺伝情報学特論	1・2後	2					1	1		1			〃
		細胞分子薬効解析学特論	1・2前	2					1	1	1				〃
		病態生化学特論	1・2後	2					1			1			〃
	医療薬学分野	薬物動態制御学特論	1・2前	2					1	1		1			〃
		病態解析学特論	1・2前	2					1	1		1			〃
		医薬品代謝解析学特論	1・2前	2					1						〃
		中枢神経機能薬理学特論	1・2前	2					1	1		1			〃
		病院薬剤学特論	1・2後	2					1		1	1		兼1	〃
	連携開講科目	臨床薬学特論	1・2後	2					1		2				〃
		加齢病態制御学特論	1・2後	2										兼2	〃
		超分子システム論	1・2後			2			2	2		1		兼1	〃
		薬物動態・DDS概論	1・2後			2			2	2		2			〃
		超分子構造・物性論	1・2後			2								兼5	〃
		センサーデバイス開発学	1・2後			2			2	3					〃
	小計(16科目)	-	0	24	8			11	7	4	8	0	兼9	-	
共通科目	医療分子機能薬学	1・2前	2					5	2				兼4	隔年開講	
	医療薬学	1・2前	2					4	3	1			兼5	〃	
	医薬化学	1・2前	2					3	3	1			兼4	〃	
	生命分子薬学	1・2前	2					3	3	1			兼1	〃	
	小計(4科目)	-	0	8	0			15	11	3	0	0	兼13	-	
特別研究	医療機能薬学特別研究	1~2通	8					11	7	4	8		兼2		
	小計(1科目)	-	8	0	0			11	7	4	8	0	兼2	-	
特別演習	医療分子機能薬学特別演習A	1~2通	4					5	4	1	4				
	医療分子機能薬学特別演習B	1~2通	4					5	4	1	4				
	医療薬学特別演習A	1~2通	4					5	3	3	4		兼2		
	医療薬学特別演習B	1~2通	4					5	3	3	4		兼2		
	小計(4科目)	-	0	16	0			10	7	4	8	0	兼2	-	
実務研修	医療機能薬学特別実務研修	1~2通	4												
	小計(1科目)	-	0	4	0									-	
合計(26科目)		-	8	52	8			18	14	9	12	0	兼13	-	
学位又は称号		修士(薬学)		学位又は学科の分野			薬学								
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
上記の科目より計30単位以上修得し、かつ修士論文の審査及び最終試験に合格すること 専門科目： ア 分野の中から主として履修する科目として、2単位を修得。 イ 副科目として履修する科目として、所属専攻内から8単位以上を修得。 なお、研究科教授会の許可を得て他専攻の専門科目からも履修できる。 ウ 連携開講科目については、研究会教授会の特別の許可を得た場合、専門科目(副科目)として認定する。 共通科目：4単位以上を修得 特別研究：8単位を修得 特別演習・特別実務研修： 主科目の属する分野の特別演習A，B計8単位を、または、特別演習Aと特別実務研修の計8単位を修得							1学年の学期区分		2学期						
							1学期の授業期間		15週						
							1時限の授業時間		90分						

授 業 科 目 の 概 要				
(名古屋市立大学 大学院薬学研究科 創薬生命科学専攻)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基礎科目	創薬生命科学基礎	医薬化学分野における専門を学習・研究する上で必要となる基礎となる部分を、導入教育として、理解しやすく系統的に講義を行う。		
	創薬生命科学基礎	生命分子薬学分野における専門を学習・研究する上で必要となる基礎となる部分を、導入教育として、理解しやすく系統的に講義を行う。		
	創薬生命科学基礎	医療分子機能薬学分野における専門を学習・研究する上で必要となる基礎となる部分を、導入教育として、理解しやすく系統的に講義を行う。		
	創薬生命科学基礎	医療薬学分野における専門を学習・研究する上で必要となる基礎となる部分を、導入教育として、理解しやすく系統的に講義を行う。		
専門科目	医薬化学分野	薬化学特論	創薬化学とは、疾病関連分子に作用して薬理活性を発現する医薬品候補化合物や、疾病発現の分子メカニズムを理解するための分子ツールの創製を目的とする有機化学である。薬化学特論では、有機化合物が標的とする生体分子をどのように認識しどのように相互作用するかを有機化学の知識に基づいて理解するとともに、医薬品を創製するために必要な分子設計、合成手法、構造活性相関など、創薬化学全般について講義する。	
		精密有機反応学特論	生体分子の行う化学は、生体分子同士の相互作用、酵素の機能など、生命科学の理解・解明において言うまでもなく重要であり、また同時に、その応用は医薬開発へもつながる。本講義では、生命科学や創薬に関わる生体関連化学を取り上げ、金属酵素を中心とする酵素の化学について概説すると共に、酵素の構造と機能の仕組みに発想を得て開発された高機能触媒分子や医薬についても講義する。また、生体機能の解明を指向した化学研究について概説する。さらに、医薬創製のための新手法や生体関連化学におけるトピックスに関する講義を行う。	
		薬品合成化学特論	最先端の有機合成化学および有機金属化学の理解をサポートする講義内容である。具体的には、典型金属反応剤(亜鉛・アルミニウム・ホウ素・ケイ素・リン)、遷移金属触媒(パラジウム・ロジウム・ニッケル・銅)および有機触媒を用いた合成反応・生理活性化合物の合成を講述する。	
		機能分子構造学特論	分子の化学的・生物学的機能を理解するためには、これらの機能分子の立体的・電子的構造の基礎理解が必要であり、それに基づくことにより、機能分子の相互作用ならびに化学反応性の理解、更にはその創製が可能となる。本講義では、まず、薬学有機化学の先端的基礎および機能分子の構造化学的基礎を理解し、生体機能関連化学の基盤となる有機超分子科学の基礎、ホスト・ゲスト分子認識化学、生体有機シグナル物質の動態分析などについて論ずる。あわせて、機能分子を合成するための反応選択性を制御する遷移金属触媒反応についても述べる。	
		生体超分子システム解析学特論	生体においては、タンパク質等の生体分子が互いに弱い相互作用によって集合体(超分子システム)を形成し、個々の成分が持っていない新しい特性や機能を発現している。免疫系や神経系では、これらの超分子システムが、さらに集合体をなし、細胞や細胞間ネットワークを形成することで、精緻な生体防御機構や複雑な情報処理機構を担っている。本特論では、簡単な生体超分子システムに始まり、免疫系や神経系の複雑で高度なシステムまで、生成機構や機能について解説し、さらに人工超分子システムについても紹介する。	
生命分子薬学分野	コロイド・高分子物性学特論	熱力学・統計力学・静電気学に基づき、(1)高分子溶液、(2)高分子ネットワーク(高分子ゲル)、(3)高分子電解質溶液、(4)剛体球コロイド、(5)荷電コロイドなどのソフトマターの物性や相挙動に関する理解を深める。高分子溶液の熱統計力学や粒子間相互作用などの基本的な概念から、さまざまな実験手法、関連の科学分野での最近の研究トピックスまでを講義する。		
	生命分子構造学特論	タンパク質、核酸、複合糖質などの生体高分子の三次元構造とダイナミクスを解明することは、生命現象を原子レベルで理解することを促すとともに、合理的な薬物設計の基盤となる。本特論では核磁気共鳴(NMR)法を中心に、生体高分子の立体構造・運動性・相互作用の解析に用いられる実験技術の原理と応用についての解説を行う。さらに、これらの方法を用いたタンパク質の立体構造形成、分子認識、機能発現メカニズムに関する研究の成果を紹介し、高次構造情報に基づいた生命科学・生体分子工学・薬物設計の現状を解説する。		

授 業 科 目 の 概 要			
(名古屋市立大学 大学院薬学研究所 創薬生命科学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 生命分子薬学分野	分子生物薬学特論	遺伝情報の大部分はDNAが担っている。細胞外からの各種の情報は、最終的には核内へと伝達されタンパク質として機能を発揮する。ヒトゲノムの解読がほぼ終了し、ポストゲノム時代を迎えた今、これらタンパク質の機能解明が最重要課題となっている。一方、各種転写制御因子が多彩な機能を有することが明らかにされ、既知遺伝子の新たな機能探索も精力的に行われている。また最近になって、タンパク質にコードされない部分の重要性が明らかにされつつある。これらの基本的な事項を整理するとともに、遺伝子発現制御機構に関する最新の知見もあわせて紹介する。さらに、細胞癌化の過程や肥満形成時における遺伝子の発現制御機構について、病態との関連性に焦点を合わせ解説する。このように、下等生物から高等真核生物まで幅広く分子生物学を学ぶことにより、21世紀の健康科学を考える。	
	薬物送達学特論	最新の創薬および医療の現場において、Drug Delivery System (DDS、薬物送達システム)技術の重要性はますます増大している。本講義では、創薬を支えるDDS・製剤設計、薬物放出制御DDS技術、粘膜投与DDS技術、標的化(ターゲティング)DDS技術について、生体分解性マイクロカプセルや抗体医薬、その他の利便性製剤など実際に世の中で使用されている製品例、企業や大学における開発・研究例やトピックスなどを具体的に示しながら解説し、今後のDDS技術について議論する。	
専門科目 医療分子機能薬学分野	生薬学特論	天然薬物資源および伝承薬物の研究に必要な方法論を概説するとともに、天然薬物・伝承薬の基原、生産、科学的評価に関する研究の最新の成果ならびに関連分野のトピックスを紹介する。	
	生体防御機能学特論	生体に微生物や異物が侵入すると、それを排除するために免疫反応が誘導される。それに伴って炎症反応がおこり、慢性化すると自己免疫疾患を含む慢性炎症性疾患が起こる。サイトカインはそれらの反応に中心的な働きをしている重要な因子である。本特論では、IL-1などのサイトカインの働き、作用調節機構、ストレスの免疫反応に及ぼす影響、結核菌やブドウ球菌の病原性発現とそれに対する生体防御機構などについて最新の知見を交えて講義する。	
	遺伝情報学特論	ヒトゲノムの解読により発見された膨大な量の機能未知RNAが、人間らしさ、生物の複雑さを規定するものであるとの考えが広まり、RNA研究が非常に注目を集めている。発生や細胞の分化・増殖、細胞周期制御、概日リズム形成、アポトーシス、老化などのあらゆる生命現象から癌や遺伝性疾患を含む各種疾患の発症に至さまざまな過程においてRNA代謝が重要な役割をはたしており、本特論においてはRNA研究の歴史から、RNAの代謝調節と新規機能、創薬への応用について概説する。	
	細胞分子薬効解析学特論	創薬標的となる生体分子(受容体など)およびその生体分子が存在する細胞への薬物の薬理作用を、疾患・病態・薬物治療・副作用毒性の推定などを踏まえて解説しつつ、標的分子の探索、作用点特化のための研究方法論とその新たな開発、スクリーニング系の応用開発論、病態モデルを用いた統合薬効評価法論、副作用・毒性論などを展開し、分子・細胞から臓器・個体レベルまで薬効・薬理情報を統合することが求められる創薬における薬理学研究展開を理解させる。	
	病態生化学特論	脳神経系に関わる諸疾患(アルツハイマー病、うつ病、統合失調症、記憶障害、読字障害、自閉症など)の発症に関わる分子機構を概説し、薬物治療に関しても述べる。また、これら疾患に関わる未解決問題と、最新の研究成果について解説し、将来の新治療に関する可能性について論じる。	
専門科目 医療薬学分野	薬物動態制御学特論	薬物の作用部位到達性を支配する体内動態(吸収、分布、代謝、排泄)のメカニズム及び評価・解析法を解説する。各種体内動態過程に関わるin vitro試験レベルからin vivo体内動態レベルまでの情報を統合的に体系化する方法論及び体内動態予測法についても解説し、薬物分子設計や製剤設計等による薬物体内動態制御法の立案から検証までを効率的に実施する方法を学ぶことのできるプログラムとする。また、関連分野を含めて、研究や技術開発の動向を紹介する。	



授 業 科 目 の 概 要				
(名古屋市立大学 大学院薬学研究科 創薬生命科学専攻)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	医療薬学分野	病態解析学特論	基本的な疾病の病態を解析し、病気の成り立ちと病気を制御するシステムへの理解を深める。本邦で著明に増加している生活習慣病、老化疾患などの諸種疾患の生理、生化学的機能の変化、発生原因および病態が進展する機序を解説する。さらに、それらの疾患を対象とする病態解析を踏まえた薬物治療の実践について、病態機能、薬物作用の観点から取り扱う。生活習慣や加齢が関わる多様な領域における臨床、診断、薬物治療法に関する最新の知識と研究の動向を理解する。総合的理解に基づき独自の研究を展開しうる学生となる。	
		医薬品代謝解析学特論	医薬品は服用後、薬理効果を発揮して治癒をしながら種々の経路を通過して排泄される。医薬品の多くは薬物代謝酵素によって代謝され、水溶性が増し排泄される。これらの代謝酵素として官能基を付与する第Ⅰ相薬物代謝酵素、それらを抱合する第Ⅱ相薬物代謝酵素、そしてこれらの代謝物を細胞外へ運搬する酵素群(トランスポーター)がある。本論では医薬品によるこれらの酵素の誘導、阻害などについて詳述する。また、ポストゲノム時代となり、ファーマコゲノミクスと個別化医療についても講述する。	
		中枢神経機能薬理学特論	薬は分子レベルで作用するが、その影響は細胞・組織レベルを経て、最終的には個体レベルまで及ぶ。また、薬の作用は神経系や内分泌系を介した各種の器官・組織の連携により発現するものが多い。末梢からの反射によっても中枢は影響を受ける。従って、薬の作用は生体全身での出来事として理解しなければならない。本特論では、主に中枢神経系作用薬について、分子・細胞・個体レベルの研究結果を総合して、その薬理作用を機能的な観点から講義する。	
		病院薬剤学特論	最近病院では、がん細胞の持つ特異的な性質を分子レベルでとらえ、それを標的として作用する分子標的薬や、個人の遺伝子のタイプに応じて最適な薬を投与するオーダーメイド医療など薬物治療は大きく変化している。この講義では医薬品がどのように開発され、どのように使用されているかを説明するとともに、現在、病院薬剤部でどのようなことが議論されているかを紹介する。また、医薬品に関する重大な医療事故の報告も後を絶たず、病院ではその防止策が重要な課題となっている。医薬品のリスクマネジメントとは何かを考え、将来医薬品開発に関わる研究者として知っておくべき事柄を概説したい。	
		臨床薬学特論	急速に進歩する臨床薬学分野の中から、最新のEBMに基づく薬物治療を紹介し、今後の展望を概説する。 医療経済的な側面を踏まえた医薬品の現状と、病院・薬局・在宅介護などの医療現場での課題を説明する。 社会的関心の高いOTC、サプリメント、機能性食品などを利用したセルフメディケーションの科学的アプローチを紹介するとともに、その将来性を考える。	
	融合分野	薬工融合特論科目	超分子とは、分子間の弱い相互作用(水素結合、疎水性相互作用、静電相互作用など)によって、複数の分子が集合し、特定の機能や構造をもつ分子集合体のことである。生体では、タンパク質、核酸、脂質といった分子がこのような超分子システムを形成し、重要な役割を果たしている。一方、化学的に合成された分子も超分子システムを形成し、多様な構造や機能を持ちうるようになってきた。講義では非生体から生体にいたるまで、様々な超分子システムについて、その構築、構造、機能について解説する。また、超分子システムの医療や工学への応用についても紹介する。	
	薬工融合特論科目	投与した薬物の体内での分布について、場所、量、時間の3要素を制御し、薬物を作用部位へ効率的に到達させることができれば、副作用を回避しながら最大限の薬効を期待できる。このような考え方に基づき、作用部位への薬物到達性の最適化(ドラッグデリバリー)を図るための種々の試みが広く活発に行われている。本講義では、その基盤となる薬物の体内動態メカニズムを踏まえ、各種ドラッグデリバリー技術について解説する。		
特別講義科目	創薬生命科学特別講義	外部講師による特別講義により構成される。本講義科目により、幅広い分野の研究、トピックスとなっている研究について学習し、研究視野を広げ、新たな発想源として役立たせる。	オムニバス方式	

授 業 科 目 の 概 要			
(名古屋市立大学 大学院薬学研究科 創薬生命科学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別演習	医薬化学特別演習	医薬化学分野における研究に関連した研究結果に関するまとめ方、プレゼンテーション、質疑応答、学術論文読解と解説に関して、複数の研究指導担当教員が指導・助言を行う。	
	生命分子薬学特別演習	生命分子薬学分野における研究に関連した研究結果に関するまとめ方、プレゼンテーション、質疑応答、学術論文読解と解説に関して、複数の研究指導担当教員が指導・助言を行う。	
	医療分子機能薬学特別演習	医療分子機能薬学分野における研究に関連した研究結果に関するまとめ方、プレゼンテーション、質疑応答、学術論文読解と解説に関して、複数の研究指導担当教員が指導・助言を行う。	
	医療薬学特別演習	医療薬学分野における研究に関連した研究結果に関するまとめ方、プレゼンテーション、質疑応答、学術論文読解と解説に関して、複数の研究指導担当教員が指導・助言を行う。	
特別研究	医薬化学特別研究	<p>(概要)</p> <p>有用な分子の設計・合成に必要な有機合成化学に関する研究、合成に有用な試薬・触媒の開発、化学を駆使して生命現象解明を行う生命化学に関する研究、有機化学の知識と技術を用いての創薬化学に関する研究について、それらの実践/指導を行い、論文指導を行う。</p> <p>(1 宮田 直樹)</p> <p>疾病関連分子に作用して薬理活性を発現する医薬品候補化合物の創製や疾病発現の分子メカニズムを理解するための分子ツールの創製を行うことを課題として研究指導を行う。</p> <p>(2 中川 秀彦)</p> <p>新規生物活性分子を設計合成しこれを分子プローブとして生体機能の探索・修飾および分子レベルでの解析を行うことを課題として研究指導を行う。</p> <p>(3 鈴木 孝禎)</p> <p>新規生理活性物質の分子設計と合成を行うことを課題として研究指導を行う。</p> <p>(4 樋口 恒彦)</p> <p>専門とする機能分子設計学、生物無機化学、医薬化学に基づき、高機能を有する酵素モデルおよび関連する触媒分子や光回転分子等新機能分子の設計・合成・機能評価、ならびに化学平衡を利用した新しい一般的創薬手法に関する系の構築と機能評価に関する研究指導を行い、その研究成果についての論文指導を行う。</p> <p>(5 梅澤 直樹)</p> <p>専門とする生物有機化学、分析化学に基づき、ペプチド及びペプチドミメティクスを用いた生体プローブやその他の生体分析手法の開発、およびβ-セクレターゼに関わる医薬科学的研究に関する研究指導を行い、その研究成果についての論文指導を行う。</p> <p>(6 加藤 信樹)</p> <p>専門とする有機合成化学に基づき、生体関連触媒や新機能分子の分子設計と効率的合成と新反応開発、及び生理活性天然物の全合成に関する研究指導を行い、その研究成果についての論文指導を行う。</p> <p>(7 近藤 和弘)</p> <p>枯渇が危惧されるレアメタル触媒による医薬品・生理活性物質の従来合成法から脱却すべく、高クラーク数(枯渇性が低い)元素によって構成される不斉触媒を新規に創製する課題の研究指導を行う。</p> <p>(8 小田嶋 和徳)</p> <p>ホスト・ゲスト分子認識化学ならびに膜界面における分子認識化学に基づき、生体内有機シグナル物質の動態解析を可能とする人工プローブ分子の設計・合成を課題とする研究指導を行い、その研究成果について論文指導を行う。</p> <p>(9 池田 慎一)</p> <p>人工機能分子あるいは医薬品の合成を効率的かつ高選択的に行うための新反応構築を目的として、複数の反応基質を一度の反応で一挙に連結する多成分連結反応を可能とする新触媒系の開発を課題とする研究指導を行い、その研究成果について論文指導を行う。</p> <p>(10 白井 直弘)</p> <p>分子軌道計算化学による手法に基づいて、ホスト・ゲスト錯体の最安定化構造を予想することを研究課題とし、人工プローブ分子の設計を課題とする研究指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(名古屋市立大学 大学院薬学研究科 創薬生命科学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別研究	生命分子薬学特別研究	<p>(概要)</p> <p>生命分子の構造と機能および疾患との関連を解明するために、構造生物学的手法を用いた生命分子の構造解明、物性物理学を基盤とした分子の自己組織化とその結果生じる超分子システムの構造と機能発現機構の追究、さらに、分子生物学的アプローチによる疾患の発症機構の解明、ウイルス養成分の制御とがんの増殖生死を制御する分子の研究について、基礎と応用の両面にわたって、研究の実践、指導を行うと共に、それらの成果をまとめるための論文作成指導を行う。</p> <p>(1 平嶋 尚英)</p> <p>即時型アレルギー応答において中心的な役割を果たすマスト細胞の細胞内シグナル伝達と炎症性メディエーターの放出機構を解明すべく、基礎と応用研究の両面から課題に関して研究指導を行う。</p> <p>(2 田中 正彦)</p> <p>神経細胞の分化・発達及び神経回路形成の分子機構とその異常について解明するために、細胞培養・スライス培養、遺伝子発現の操作、イメージングなどの手法を用いた課題に関して研究指導を行う。</p> <p>(3 田所 哲)</p> <p>マスト細胞の炎症性メディエーターの放出機構において、分泌顆粒と細胞膜の融合に關する分子の探索とそれらによる融合制御機構に関する研究指導を行う。</p> <p>(4 山中 淳平)</p> <p>コロイドおよび高分子系の自己組織化・相転移現象の解明を研究課題とし、荷電コロイドの相転移・相分離機構およびコロイド系の応用に関する研究指導を行う。</p> <p>(5 宮田 勇)</p> <p>コロイドの医薬領域への応用を研究課題とし、会合コロイド系の物性およびマイクロエマルジョン製剤に関する研究指導を行う。</p> <p>(6 豊玉 彰子)</p> <p>コロイドおよび高分子系の相転移現象の解明を研究課題とし、制御された結晶化およびコロイド結晶構造の応用に関する研究指導を行う。</p> <p>(7 加藤 晃一)</p> <p>核磁気共鳴法を用いて、タンパク質、複合糖質の高次構造および、その機能の解明を課題とする研究指導を行う。</p> <p>(8 水島 恒裕)</p> <p>X線結晶構造解析を用い、超分子複合体タンパク質の高次構造および、その機能の解明を課題とする研究指導を行う。</p> <p>(9 矢木 宏和)</p> <p>質量分析を中心としたグライコムクス解析の手法を利用し、複合糖質の機能発現機構の解明を課題とする研究指導を行う。</p> <p>(10 今川 正良)</p> <p>生活習慣病の分子機構解明を研究課題とし、肥満形成の分子機構、細胞がん化の分子機構、遺伝子発現調節因子の制御機構に関する研究指導を行う。</p> <p>(11 長田 茂宏)</p> <p>細胞がん化の分子機構の解明を研究課題とし、真核細胞における遺伝子発現制御を中心とした遺伝子機能の制御機構に関する研究指導を行う。</p> <p>(12 西塚 誠)</p> <p>生活習慣病の主要なリスクファクターである肥満の形成機構を研究課題とし、肥満形成の分子メカニズムの解明に関する研究指導を行う。</p> <p>(13 尾関 哲也)</p> <p>脳腫瘍などのがんに対するドラッグ・デリバリー・システム(DDS)、経肺投与DDS、難吸収性薬物の製剤設計に関して、ナノ・マイクロサイズの粒子設計の手法を用いて、研究の実践、指導および論文作成の指導を行う。</p> <p>(14 鶴見 達也)</p> <p>ヒトがんウイルスの増殖機構およびその制御を研究課題とし、ウイルス陽性がんの制御を目指した研究に関する研究指導を行う。</p> <p>(15 京ヶ島 守)</p> <p>がんの増殖生死を制御するプロテオグリカン、スフィンゴ脂質の作用機構を研究課題とし、機構解明を目指した研究に関する研究指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(名古屋市立大学 大学院薬学研究科 創薬生命科学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別研究	医療分子機能薬学特別研究	<p>(概要)</p> <p>天然薬物及び伝承薬物の有用物質生産、起源、ゲノム情報に基づく薬用植物の多様性解析、科学的評価、炎症性サイトカインの生理作用や活性発現調節機構、結核に対するワクチンの研究や新規抗結核薬の開発、生命現象において重要な役割を担う遺伝情報 (RNA) の代謝・遺伝子発現の転写後調節およびその臨床応用に関する研究、創薬標的となる生体分子、特にイオンチャネルについて、遺伝子異常・発現異常・機能異常などの解析による薬物の薬理および探索系の開発に関する研究、脳神経形成の分子機構、神経細胞の動態における細胞膜分子の機能に関して、研究の実践、指導を行い、論文指導をおこなう。</p> <p>(1 水上 元)</p> <p>薬用植物の種多様性と第二次代謝に関する分子生物学的解析と植物を素材とする生物機能物質の探索とその創薬への応用に関する課題について研究指導を行う。</p> <p>(2 牧野 利明)</p> <p>現代医療における漢方医学の役割およびそのエビデンスの解明を目指した研究課題と、生薬・漢方薬含有成分を医療に応用するための医療薬学的な課題について研究指導を行う。</p> <p>(3 寺坂 和祥)</p> <p>薬用植物由来の生理活性物質の生合成および膜輸送の分子生物学的解析と代謝工学および輸送工学を利用した有用物質生産に関する課題について研究指導を行う。</p> <p>(4 小野崎 菊夫)</p> <p>炎症性サイトカイン特にIL-1を中心に、その生理作用や活性発現調節機構を明らかにすることを目的とする研究の指導を行う。特に、たばこの煙成分と関節リウマチとの関係を、炎症性サイトカインとの関連から培養細胞や動物実験を用いて研究する。</p> <p>(5 瀧井 猛将)</p> <p>結核に対するワクチンの研究や新規抗結核薬の開発を目的として、研究指導を行う。ワクチンに関しては、BCGワクチン亜株間の成分や免疫学的特性の比較、ポリオワクチンを用いた新規抗結核ワクチンの開発を行う。抗結核薬に関しては、結核菌や抗酸菌に対し殺菌作用を示す新規化合物の作用機構の解明や、さらなる活性強化を目的とした誘導体の合成をおこなう。</p> <p>(6 伊藤 佐生智)</p> <p>細菌は様々な機構で宿主の免疫系をかく乱している。黄色ブドウ球菌の産生する種々の分泌タンパク質に注目し、これらがどのようにして白血球や免疫系のタンパク質(抗体、補体など)の機能を妨害しているのか、機構解明の研究指導を行う。</p> <p>(7 星野 真一)</p> <p>生化学、分子生物学、細胞生物学、分子遺伝学的手法を用い、mRNA代謝とそれに関連する疾患治療への応用に関する研究指導を行う。</p> <p>(8 藤井 陽一)</p> <p>ヒト免疫不全ウイルス感染症(エイズウイルス感染症)とmicroRNA遺伝子に関する研究、指導を行う。</p> <p>(9 細田 直)</p> <p>細胞内においてmRNA動態をコントロールする分子機構、およびその分子機構をターゲットとした創薬シーズの探索を研究課題とし、研究の実践、指導を行う。</p> <p>(10 今泉 祐治)</p> <p>研究テーマの設定と位置づけを主導するとともに、電気生理学的手法によるイオンチャネル標的創薬に関する研究指導を行う。</p> <p>(11 大矢 進)</p> <p>分子生物学的手法による疾患とイオンチャネル機能発現異常の関連解析およびイオンチャネル標的創薬に関する研究指導を行う。</p> <p>(12 山村 寿男)</p> <p>各種画像解析法を用いたイオンチャネル分子機能および共役分子の探索・解析とイオンチャネル標的創薬に関する研究指導を行う。</p> <p>(13 服部 光治)</p> <p>生化学的、分子生物学的、細胞生物学的手法、遺伝学的を用い、脳神経形成の分子機構についての研究指導を行う。</p> <p>(14 馬場 敦)</p> <p>細胞生物学的手法、薬理学的手法を用い、神経細胞の動態における細胞膜分子の機能についての研究指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(名古屋市立大学 大学院薬学研究科 創薬生命科学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別研究	医療薬学特別研究	<p>(概要) 細胞性ストレスの生理・病理・薬理作用、動脈硬化症、高血圧症、糖尿病など生活習慣や加齢が関する疾病の病態の解析・制御システム、慢性痛および中枢運動系疾患の発症メカニズムの解明とそれらの治療薬探索と作用機序の解明に関する研究、男性性機能障害(ED)、慢性腎臓病(CKD)における血管内皮機能障害および有機酸代謝異常症等患者におけるアシルカルニチン代謝研究、さらにアルツハイマー病及び骨粗鬆症の発症メカニズムの解明と制御法の開発に関して、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。</p> <p>(1 湯浅 博昭) 薬物体内動態における腸管吸収の役割を取り上げ、薬物腸管吸収の解析及び分子・製剤設計による吸収制御の課題の研究指導を行う。</p> <p>(2 井上 勝央) 薬物体内動態におけるトランスポーターの役割に着目し、トランスポーターの機能解析及び分子・製剤設計による薬物動態制御への応用の課題の研究指導を行う。</p> <p>(3 太田 欣哉) 薬物体内動態における腎排泄の役割を取り上げ、薬物腎排泄の解析及び分子・製剤設計による排泄制御の課題の研究指導を行う。</p> <p>(4 藤井 聡) 血栓と血管の炎症など血液と血管の関わる病態を解析し、細胞や疾患モデル動物を利用した分析技術を用いて新たな薬物治療を開発する課題の研究指導を行う。</p> <p>(5 橋本 紀夫) ペプチド・脂質・DNAで構成されるナノ粒子を作成する手法を用いて遺伝子デリバリー効率をあげることを目指す課題の研究指導を行う。</p> <p>(6 岩城 壮一郎) 生体内で様々な活性を持つ脂質代謝物を取り上げ、生体内におけるそのバランス調節と病態における破綻が疾病の発症、進展におよぼす影響に関する研究指導を行う。</p> <p>(7 林 秀敏) 細胞性ストレスと生命現象、生活習慣病、および薬物代謝との関連性について、生化学・細胞生物学・分子生物学などを用いて、分子レベルでそのメカニズムを解析するという課題の研究指導を行う。</p> <p>(8 小野 秀樹) 主に中枢運動系疾患に対する治療薬の探索とメカニズム解明を研究課題とし、行動学的およびin vivo電気生理学的研究の指導を行う。</p> <p>(9 田辺 光男) 行動薬理学的およびin vivo、in vitro電気生理学的手法を用いて慢性疼痛を始めとする中枢神経疾患の病態解明や新規治療薬開発へ向けた基盤研究の指導を行う。</p> <p>(10 山本 昇平) 脊髄における情報伝達および増幅機構を取り上げ、感覚 運動系連関に関する研究指導を行う。</p> <p>(11 木村 和哲) 男性性機能障害(ED)に関する基礎的な研究・慢性腎臓病(CKD)における血管内皮機能障害に関して、実験動物を用いた薬理的、遺伝子工学的および組織学的な手法を用いてその実験方法、データの解析方法など論文作成も含み研究全般にわたって指導する。</p> <p>(12 黒野 幸久) 高アンモニア血症への安息香酸ナトリウム療法におけるベンゾイルカルニチン(BC)と馬尿酸(HPA)の体内動態について、体内動態パラメーターの解析及び定量値と病態との関連性について論文作成も含めて研究指導を行う。</p> <p>(13 前田 康博) タンデム質量分析計(MS/MS)・HPLCを用いた定量分析について、その測定条件およびデータ解析を中心に指導を行い、生体試料の測定方法全般にわたって研究指導する。</p> <p>(14 内藤 敏子) ベンゾイルカルニチン(BC)の合成(同位体を含む)と元素分析に関する測定手法を指導する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(名古屋市立大学 大学院薬学研究科 創薬生命科学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別 研究	医療薬学特別研究	<p>(15 鈴木 匡) OTCやサプリメント、機能性食品を利用したセルフメディケーションの科学的分析を研究課題とし、医療薬学、医療経済学的に見た医薬品・機能性食品等の流通・利用について研究指導を行う。</p> <p>(16 前田 徹) 薬物代謝酵素の遺伝子多型に基づく抗がん剤の適正使用および副作用の予測・予防を研究課題とし、抗がん剤である代謝酵素であるDPD(ジヒドロピリミジンデヒドロゲナーゼ)やTPMT(チオプリンメチルトランスフェラーゼ)の欠損症の遺伝子診断とその臨床応用に関する研究指導を行う。</p> <p>(17 菊池 千草) 糖尿病の血管障害のメカニズムと薬剤の効果に関する研究指導を行う。</p> <p>(18 道川 誠) アルツハイマー病の発症メカニズムを解明し、その知見に基づいた治療法の開発を目指した研究に関し、研究指導を行う。</p> <p>(19 竹下 淳) 骨粗鬆症の発症メカニズムを解明し、その知見に基づいた治療薬の開発を目指した研究に関し、研究指導を行う。</p>	

## 設置の趣旨

21世紀を迎え、先進国においては60歳以上の人口が平均20%を越える高度の高齢化社会が形成されている。そのために、癌や認知症、生活習慣病など加齢が要因となり得る難治性疾病の比率は上昇を続けている。また、新興感染症の脅威も、新型インフルエンザの出現などにより一層拡大した。このような医療の諸問題の解決に繋がる生命科学基礎研究や創薬科学研究に携わる優れた研究者・技術者の養成がますます重要を増している。創薬研究においては、扱うべき創薬ターゲットが、容易なものから研究されてきたため、次第に難易度の高いものの比率が高まっている状況になりつつあり、開発にかかる時間・労力・資源等はこれまで以上に莫大なものになっている。このような状況を打破するためには、革新性・創造性豊かな研究力ある人材の輩出が急務ともなっている。一方では、今世紀に入って、ヒトゲノムを初めとする様々な生物ゲノムの全解読が次々に達成され、また研究を支える様々な機器や手法の発展なども相まって、生命科学研究進展に加速が見込まれる状況にもなっている。さらに、科学技術創造立国を標榜している日本国という立場からも、生命科学・創薬科学において先導的な位置を日本が占めるべき必要性は高い。この意味からも、上記のような質の高い人材育成及び質の高い科学的成果の発信・知的財産構築が高い重要性を有することは、論を待たない。

このような状況下、薬学部の新制度が平成18年度より施行されたことに伴い、名古屋市立大学薬学部においては薬剤師国家試験受験資格が得られる6年制学科である薬学科と、基本的には受験資格の得られない4年制学科の生命薬科学科を併設した。薬学科の学生は、6年間で修学の後卒業し、薬剤師資格の取得と共に、主として薬剤師として医療の現場への従事や医療行政への従事等を想定した課程としている。一方、生命薬科学科の学生は、卒業後その大部分は大学院に進学し、大学院修了後には製薬企業などの企業や官公庁・大学における研究者・技術者として社会で活躍することを想定している。本年度末にこの新課程である生命薬科学科学生の最初の卒業生が輩出されるのに伴い、接続する課程としてこのたび新たな大学院薬学研究科博士前期課程を設置する必要が生じた。

名古屋市立大学大学院薬学研究科博士前期課程（修士課程）は、1961年に創設され（大学設置は1950年）、48年の大学院の歴史を有している。近年では博士前期課程が140名を越える規模を有し、これまでも製薬企業を始めとする企業や大学・国公立研究所等への研究者・技術者を数多く輩出している実績がある。

このたび設置を届け出る大学院薬学研究科博士前期課程・創薬生命科学専攻は、主に前述したような生命科学基礎研究や創薬研究に携わる革新性・創造性豊かな優れた研究者・技術者の養成と質の高い科学的成果の発信をこれまで以上に目指す専攻とする。これまでの大学院博士前期課程が有していた理念との間に一定の継続性があるものと考えられるが、その基盤の上に立ちつつ、一層社会のニーズに応えるかたちで向上を目指した新課程とする。

### ア 薬学研究科博士前期課程設置・創薬生命科学専攻の趣旨及び必要性

今回新設する大学院薬学研究科博士前期課程においては、以下のような人材の養成を行う。

新しく設置する専攻は、基本的には4年制学科である生命薬科学科の上に接続する大学院博士前期課程と位置づけている。したがって、課程修了後には、博士後期課程進学あるいは、製薬企業を初めとする企業の研究職・技術職、国公立研究所の研究職・技術職、大学等の教育職への就職が主な具体的進路となる。科学創造立国を唱える国の方針と製薬等企業の需要から鑑みるに、高度で力

量ある研究者・技術者、創造力・革新性豊かな研究者・技術者の養成には高い必要性が考えられ、そのような人材養成に重点を置き、努める。そのためには、研究能力育成に有効な各種の講義（特論）を行い、知識面における充実をはかる。同時に、各研究分野における教育研究（特別研究）及び特別演習で、基礎的研究能力・研究技術を十分身につけさせ、また、最先端の教育研究を経験させることにより、質の高い科学研究や最新の技術、科学的思考法を身につけさせる。以上の講義、教育研究、演習により新しい発想に繋がる素養や革新を行う指向性をも養っていく。

薬学研究科博士前期課程の構想は、博士後期課程の平成 24 年設置を目指したものである。

組織として研究対象とする中心的学問分野は、生命科学分野、および創薬科学分野である。これは、薬学が生体と物質とのインターフェースを扱う幅広い分野から構成されており、上記のような分野があてはまる。

#### イ 薬学研究科博士前期課程の特色

旧来の薬学研究科博士前期課程では、修了後に薬剤師としてあるいは薬剤師免許の必要な職種に就き医療の現場に従事する学生も 2 割から 3 割の人数比で存在したが、今回設置する新課程においては、薬剤師免許を得ない学生を基本的に対象とする。このため、これまで以上に、研究職・技術職として企業等へ輩出する重要性が増している。したがって、生命科学分野や創薬科学分野の研究者・技術者養成に、一層重点を置いたものとなるが、一方では、他の理工系、農学系出身者にはない特徴も持たせる必要がある。医薬品などの化学物質に対する理解と生体・生命に対する理解、およびその両者の関係をバランスよく身につけた薬学というバックグラウンドを有する研究者・技術者を養成することに重点を置いたところが特徴である。また、現在薬学研究科は、名古屋工業大学の大学院と連携しており、昨年度には、文部科学省大学院教育改革支援プログラム「ナノメディシン創薬研究者の育成」が採択された。現在、薬学研究科と工学研究科の融合的な教育プログラムが始動しており、全国でも他に例を見ない特色となっている。

#### ウ 研究科，専攻等の名称及び学位の名称

今回設置を行う課程の名称は、名古屋市立大学大学院薬学研究科博士前期課程であり、「創薬生命科学専攻」の一専攻とする。これは、本課程が取り組む中心の研究分野が、生命科学と創薬科学であり、その 2 つの柱を表す名称として適切と考えられたことが一つの根拠である。

対応する学部学科は、生命薬科学科であり、そちらの名称と異なる理由は、大学院においては、「創」という創造性を象徴する文字を含めることにより、学部以上に独創性あふれる創造性を身につけた薬学研究者育成という意味を込めたことに由来する。

学位の名称については、「修士（薬科学）」とする。

各英訳名称は以下のように記述する。

研究科：「Graduate School of Pharmaceutical Sciences」

専攻：「Major in Medicinal and Life Sciences」

学位：「Master of Science」

#### エ 教育課程の編成の考え方及び特色

本課程の編成については、以下の表のように行う。

講義科目については、以下のように編成する。



初年度前期前半において、各大講座ごとに基礎的な内容の基礎講義科目を設ける。これは、大学院における導入教育としての意味合いを持ち、特に他学部出身者に対する導入教育として効果的なものと期待できる。

この基礎科目受講の後に、各研究室ごとに特徴ある講義科目としてそれぞれの研究室特論を設ける。これは、各研究室の教員による体系的なシラバス編成とする。研究室特論は毎年開講する。

また、外部講師による講義科目として特別講義科目を設ける。外部講師による講義は、この科目にすべてまとめる。本講義科目により、幅広い分野の研究、トピックスとなっている研究について学習し、研究視野を広げ、新たな発想源として役立つと期待できる。

さらに、前述のように薬工融合の教育課程が進行していることより、薬工融合特論科目も2科目設けている。この科目は、薬学研究科教員と名古屋工業大学教員が連携して講義を行う特徴的なものであり、新しい切り口により創造的な研究土壌が醸成されることが期待できる。

授業科目について、必修科目、選択科目については以下の通りである。

必修科目	所属する分野の中から主として履修する科目として2単位、創薬生命科学特別講義(2単位)、基礎科目から2単位
選択科目	上記以外の分野科目(8単位以上)
自由科目	なし

必修科目については、所属する分野が最も研究の専門分野に関連が深いと考え、専門関連分野の中から2科目を必修科目として履修させるのは合理性があると考えられる。また、外部講師による講演から構成される創薬生命科学特別講義についても、優れた業績、注目された研究に関する講演を集積したものであるため、その履修は意義深いと考え必修科目とする。また、基礎科目も2単位の履修の必要性を鑑み、2単位を必修としている。

また、専門分野との関連性が必修科目として選択した科目ほど高くない分野科目に関しては、選択科目とした。

自由科目は特に設けない。

生命科学に重点を置いたプログラムとしては、遺伝子や酵素、受容体タンパク質などの構造生物学、細胞も含めた分子生物学による生命現象の解明、それらの解明に役立つケミカルバイオロジーなどを総合的に学習する。また、学生の独創的発想を常に尊重し、その育成に重点を置きつつ、学際的な研究も含め、できるだけ切り口の新しい先端的生命科学教育研究を行うことにより、自立した研究能力を有する創造性豊かな生命科学者を育成する。

また、創薬科学に重点を置いたプログラムとしては、より効率化した専門教育に加えて、創薬科学に特化した講義・演習で一定レベルの修得をさせること、インターンシップによって異なる研究環境、研究内容を経験させること、さらにグループによる総合演習も行い、その際、学生の独創的発想を常に尊重しそれを促進する研究企画発案発表会の開催など多角的に行う。

特に、医薬候補化合物の提案に際しては、独創性の高いものを提案できるようにする、また、できるだけ毒性を発現しにくい構造、代謝や体内輸送が問題の起きにくい構造をできるだけ提案できるような教育を行う。さらに、合成しやすさや大量合成ルートも見据えた構造をできるだけ提案できるような人材育成に務める。一方では、活性評価においては、*in vivo* 評価に関し十分専門性を備え、特にヒトとの種差等を十分に考慮してヒトに対する妥当な活性評価を外挿できる、あるいはヒトに近づけた *in vivo* 評価系の構築を行

える人材の育成に務める。以上のように、本教育プログラムにおいては、創薬に関して実質性・実戦性という観点で一步踏み込んだ内容を実施し、より多くの新薬を社会に送り出せる社会ニーズに即した、創造性豊かな創薬研究者が育成されることを期待している。

特別研究科目においては、各研究室に配属された大学院生が、研究室所属教員の指導のもとに教育研究を遂行し、学位取得につながる研究結果を得ていく。この過程で様々な研究手法や科学的思考法、分析方法等を学習する。学位論文作成に関しても、教員の指導のもとに十分推敲し作成する。

特別演習科目は、各研究室において実験結果の報告会や学会等において実験結果のまとめ方、研究に関するプレゼンテーションなどを学習する。また、文献紹介等の学術論文読解に関するゼミなどで、英語の学術論文を正確に読解し、内容をわかりやすく解説する経験を積む。

#### オ 教員組織の編成の考え方及び特色

大学院薬学研究科・創薬生命科学専攻は、医薬化学分野・生命分子薬学分野・医療分子機能薬学分野・医療薬学分野の4分野で構成され、各分野には4ないし5研究室が所属する。一研究室には、基本的に3名の教員が所属し、教育研究活動を行っている。

設置の趣旨として第一に挙げられるのが、高度の能力を有する生命科学、創薬化学分野の研究者・技術者の育成であるが、本研究科においては、関連する各分野においてその分野において秀でた業績・能力・教育経験を有する教員を公募によって厳格に審査し、教授として採用している。准教授・講師・助教もそれに準じて採用し優れた業績・能力を有する者が着任しており、教授・准教授・講師の全て、及び助教のほとんどが博士の学位を有している。

とくに中心となる生命科学の分野では、構造生物学、生物無機化学、分子生物学、細胞生物学等で優れた業績をあげている教員が多数おり充実している。また、創薬科学においても医薬品化学や薬理学、薬物動態学などで優れた業績の教員を多数配置している。

学位の種類的大部分は薬学博士あるいは博士(薬学)であるが、医療に近い分野においては医学博士あるいは博士(医学)4名、博士(獣医学)1名を配置しており、また基礎の化学、物理化学分野においては博士(工学)2名、博士(理学)1名を配置している。このため、一定の幅のある専門分野を確保できていると考えられる。以上のような教員配置により、設置の趣旨の人材養成に適した教員組織の編成になっていると考えられる。

授業科目負担に関しては、ほとんど平等であり、過度に負担の重い教員は存在しない。

これまで、旧課程においては、1学年72名定員で実際80名前後の大学院生を指導してきたが、新しい課程では、定員は36名(学部：生命薬科学科の定員40名)と約半数の大学院生の指導となるため、教員数には余裕があり、より充実した指導体制となっている。

#### カ 教育方法、履修指導方法、研究指導の方法及び修了要件

教育方法：

1年次の前期前半期は、基礎科目のみを開講し、専門科目履修のための基礎科目を2科目以上導入教育として履修させて基礎固めを行い、円滑に専門科目の履修につなげる。

専門科目においては、創薬生命科学推進の基礎的知識・技術として薬化学、精密有機反応学、薬品合成化学、機能分子構造学などの医薬化学分野、生体超分子システム解析学、コロイド・高分子物性学、生命分子構造学、分子生物薬学、薬物送達学などの生命分子薬学分野、生薬学、生体防御機能学、遺伝情報学、細胞分子薬効学、病態生化学などの医療分子機能薬学分野、さらには薬物動

態制御学、病態解析学、医薬品代謝解析学、中枢神経機能薬理学、病院薬剤学、臨床薬学などの医療薬学の習得で得た知識・技術を発展・展開し、当該領域のより高度な研究の進め方や研究遂行に必要な技術的指導を行う。

さらに、生命科学・創薬科学を基礎及び医療応用のための知識・技術として展開するために、より高度の研究・技術の推進とその指導を行う。

## 履修指導方法

### (1) 基礎科目

学生は、2科目(2単位)を履修しなければならない。

成績評価はレポートまたは試験により行う。

### (2) 専門科目

学生は、所属する分野内より関連する2科目を選択し履修しなければならない。

学生は、創薬生命科学特別講義2科目を履修しなければならない。

上記で選択した2科目以外は自由に選択できる。合わせて8単位以上を履修しなければならない。

成績評価はレポートまたは試験により行う。

### (3) 特別研究

特別研究のテーマ設定と研究計画の策定は、主研究指導教員を中心に、所属する研究室内の複数の指導教員と学生が協議して行い、それに沿って多面的な研究指導を実施する。

### (4) 特別演習

学生は、所属する研究室の特別演習を修得しなければならない。特別演習の修得にあたっては、所属研究室の複数の研究指導教員、研究指導補助員が相談、指導する。

## 研究指導の方法

研究の遂行に当たっては、研究指導教員が、計画に沿った研究の展開と詳細な研究結果を把握した上で指導を行ない、研究の方向性などについても随時助言、指導を行っていく。その際には学生の自発性、発想を尊重する。論文指導は、特別研究において指導教員になった研究指導教員が主たる指導教員として、学生の進展状況に応じて、随時個別に助言を与えるとともに、研究室内の他の教員も副たる研究指導教員として、研究指導の補助を与える複数指導体制で、博士前期課程の2年間の課程内で、修士論文が作成できるように指導する。必要な場合には、連携分野の教員を研究指導教員として加える。

## 修了要件

学生は2学年以上在籍し、授業科目、特別研究、特別演習について、合計30単位以上を修得し、かつ最終試験及び修士論文の審査に合格すること。

### (1) 授業科目

専門科目受講のための導入基礎として基礎科目2科目を選択し、2単位を修得する。

修士論文作成の基盤となる知識・技術を習得するため、所属分野内から2科目を選択し、2単

位を修得する。

創薬生命科学特別講義 2 単位を修得する。

の関連分野科目において習得する知識・技術の理解を深めると共に、応用の幅を広げ、修士論文作成の推進を補完するため、 において修得した科目以外 8 単位を自由に選択し修得する。

(2) 特別研究

1 年から 2 年にかけて所属分野の特別研究 8 単位を修得する。

(3) 特別演習

1 年から 2 年にかけて所属分野の特別演習に定期的に出席し、8 単位を修得する。

授業科目の単位数は、講義は 15 時間、特別演習は 30 時間、特別研究は 30 時間で 1 単位とする。

履修モデル： 医薬化学分野の一例

科目分類	科目名	履修時期	単位数
基礎科目	創薬生命科学基礎 I	1 年前期前半期	1
	創薬生命科学基礎 III	1 年前期前半期	1
専門科目	精密有機反応学特論	1 年前期後半期	1
	薬化学特論	1 年前期後半期	1
	コロイド・高分子物性学特論	1 年後期前半期	1
	薬品合成化学特論	1 年後期前半期	1
	分子生物薬学	1 年後期後半期	1
	生命分子構造学特論	1 年後期後半期	1
特別講義科目	創薬生命科学特別講義	1 年後期	2
専門科目	薬物送達学	2 年前期前半期	1
	医薬品代謝解析学特論	2 年後期後半期	1
	薬物動態学特論	2 年後期後半期	1
融合分野	薬工融合科目 I・II	1, 2 年後期後半期	1
特別演習	医薬化学特別演習	1~2 通年	8
特別研究	医薬化学特別研究	1~2 通年	8
			計 30

この履修モデルは、医薬化学分野の学生について示したものである。1 年の前期に基礎科目を 2 つ履修することにより、専門科目履修を円滑にし、その後、前期後期で専門に近い医薬化学分野の科目及び基礎的な物理化学、および生物物理学について習得する。また、特別講義科目によりトピックスとなっている研究や先端研究について習得する。2 年においては、より生物学に近い科目により生体について学び、薬物の動態やドラッグデリバリーについて習得する。またさらに、薬工融合科目の修得により学際的な切り口の研究にも触れ学ぶ。以上により、医薬化学に必要な主な科目を修得し、特別研究の遂行や、修了後の企業や研究所における職務に役立つ知識・考え方などを身につける。これらの履修により、創薬科学のセンスを身につけた生命科学研究者を育成する。

履修モデル： 医療薬学分野の一例

科目分類	科目名	履修時期	単位数
基礎科目	創薬生命科学基礎 II	1 年前期前半期	1
	創薬生命科学基礎 IV	1 年前期前半期	1
専門科目	病態解析学特論	1 年前期後半期	1
	中枢神経機能薬理学特論	1 年前期後半期	1
	病態生化学特論	1 年前期後半期	1
	遺伝情報学特論	1 年後期前半期	1
	生体防御機能学特論	1 年後期後半期	1
	医薬品代謝解析学特論	1 年後期後半期	1
特別講義科目	創薬生命科学特別講義	1 年後期	2
専門科目	薬化学特論	2 年前期前半期	1
	機能分子構造学特論	2 年後期前半期	1
	生命分子構造学特論	2 年後期前半期	1
融合分野	薬工融合科目 I・II	1, 2 年後期後半期	1
特別演習	医療薬学特別演習	1~2 通年	8
特別研究	医療薬学特別研究	1~2 通年	8
			計 30

この履修モデルは医療薬学分野の学生の一例について示したものである。1 年の前期に基礎科目を 2 つ履修することにより、専門科目履修を円滑にし、その後、前期後半期で専門に近い医療薬学分野の科目および基礎的な生物化学、および衛生薬学について習得する。また、特別講義科目によりトピックスとなっている研究や先端研究について習得する。2 年においては、より創薬に近い科目により薬物設計について学び、ケミカルバイオロジーやケムインフォマティクスについて習得する。さらに、薬工融合科目の修得により、学際的な領域の研究にもふれ見聞を広げる。以上により、医療薬学に必要な主な科目を修得し、特別研究の遂行や、終了後の職務に応用の利く知識・考え方などを身につける。これらの履修により、医療センスを身につけた生命科学研究者を育成する。

#### キ 学位審査の体制

修士（薬科学）の学位審査に関しては以下のような体制をとっている。

公開の論文発表会を実施する。

論文要旨は製本して公表する。

論文の審査のために、教授および准教授の全員で構成される研究科論文審査会を設置する。

主査（指導教員）および副査 2 名以上、計 3 名以上で論文内容を精査する。

論文の可否は論文審査会で決定する。

#### ク 研究倫理の審査体制

大学として、「名古屋市立大学における研究倫理に関する指針」を作成し、同規程および関連の諸規程を遵守（および諸規程に基づき審査）することで研究倫理の確保を図っている。

関連する以下に示す各種委員会が存在し、規定に従って、対応する委員会が中心となり問題の発生防止や対策をそれぞれ行う。

動物バイオ倫理委員会、遺伝子組換え実験等安全委員会、バイオセーフティ委員会、放射線安全委員会、研究不正防止対策委員会、ハラスメント対策委員会

#### ケ 施設・設備等の整備計画

目的とする優れた生命科学・創薬科学研究者の育成を行うためには、先端的教育研究推進にふさわしい相応の施設・設備も必要とする。それに対応して現在、研究棟の改築（事実上の新築）が進んでおり、大学院設置時には、新しい研究棟（6階建て、2棟）は完成している。新研究棟では、最新の実験設備が装備され、また、全館的に窒素ガスや二酸化炭素ガス、アルゴンガスが配管されることにより、細胞培養などの生命科学や化学研究の利便性をこれまでより大きく高める。また、実験室面積がより必要な研究室のために競争的スペースを確保し、研究室ごとに借りて使用することにより、一層効率的な教育研究遂行が見込まれる。さらに、吸排気設備においてもこれまで以上に充実するため、学生・教員の研究環境も向上する。

学生の居室等に関しては、それぞれの研究室の研究室ごとに設けられており、一例を別紙3のように図面に示す。一方、奇数階には学生が憩えるラウンジも設けている。精神的ゆとりを与えることで教育研究にとっても良好な効果があると考えられる。

講義棟に関しても改築の計画があり、すでに具体的設計も完了している。

#### コ 既設の修士課程との関係

全教員が参加する課程であるので、これまでの教育研究の柱となる領域（4 教育課程の概要 別紙2参照）は、ほぼすべて新課程においても1対1に対応して存在する。また研究室配置もほぼ同様である。

#### サ 基礎となる学部学科

本大学院薬学研究科の基礎となる学部学科は、生命薬科学科である。

生命薬科学科における卒業要件は、全学教養教育科目 39 単位以上、専門教育科目 85 単位以上、合計 124 単位以上とする。問題探求・解決能力と創造能力を有し、我が国における創薬・生命科学分野の進歩に貢献しうる人材の育成という本学科の教育目標に鑑みて、専門教育科目のうち必須科目は「基礎薬学科目」のうちの特に基礎的な科目と実習科目の合計 65 単位にとどめ、科目選択の機会を広げることにより、基礎薬学の体系的教育と多彩な創薬生命科学科目の提供による学習内容の多様性と選択性の保障をはかる。その教育課程の詳細を以下に示す。

基礎となる学部(生命薬科学科)の教育課程

	授業科目の名称	配当年次	単位数又は時間数			専任教員配置					
			必修	選択	自由	教授	助教授	講師	助手		
授業科目等の概要	薬学部生命薬科学科										
	全学教養教育科目	テーマ科目	テーマ科目1	1年		2					卒業要件
			テーマ科目2	1年		2					教養教育科目 39単位
			テーマ科目3	1年		2					(内訳)
			テーマ科目4	1年		2					テーマ科目・共通教養科目 10単位
			テーマ科目5	1年		2					基礎科目 18単位
			テーマ科目6	1年		2					外国語科目 4単位
			テーマ科目7	1年		2					健康・スポーツ科目 3単位
			テーマ科目8	1年		2					系に関らず 4単位
			テーマ科目9	1年		2					専門教育科目 85単位
			テーマ科目10	1年		2					(内訳)
			テーマ科目11	1年		2					講義・演習(必修) 44単位
			テーマ科目12	1年		2					講義・演習(選択) 19単位
			テーマ科目13	1年		2					基礎実習 12単位
			テーマ科目14	1年		2					卒業研究実習 10単位
			テーマ科目15	1年		2					合計 124単位
			テーマ科目16	1年		2					
			テーマ科目17	1年		2					
			テーマ科目18	1年		2					
			テーマ科目19	1年		2					
			テーマ科目20	1年		2					
テーマ科目21			1年		2						
共通教養科目	現代社会の諸相	日本国憲法	1年		2						
		法学1	1年		2						
		法学2	1年		2						
		現代社会1	1年		2						
		現代社会2	1年		2						
		現代社会3	1年		2						
		経済学1	1年		2						
		経済学2	1年		2						
		経済学3	1年		2						
		経営学	1年		2						
		社会学1	1年		2						
		社会学2	1年		2						
		社会学3	1年		2						
		政治学1	1年		2						
政治学2	1年		2								
政治学3	1年		2								
国際関係論1	1年		2								
国際関係論2	1年		2								

基礎となる学部(生命薬科学科)の教育課程

	授業科目の名称	配当年次	単位数又は時間数			専任教員配置										
			必修	選択	自由	教授	助教授	講師	助手							
授業科目等の概要	全学教養教育科目	共通教養科目	異文化・自文化の理解	文化の理解1	1年		2									
				文化の理解2	1年		2									
				文化の理解3	1年		2									
				文化の理解4	1年		2									
				歴史の認識1	1年		2									
				歴史の認識2	1年		2									
				歴史の認識3	1年		2									
				歴史の認識4	1年		2									
				歴史の認識5	1年		2									
				歴史の認識6	1年		2									
				歴史の認識7	1年		2									
				人類学1	1年		2									
				人類学2	1年		2									
				地理学1	1年		2									
			地理学2	1年		2										
			人間性の探求	人間性の探求1	1年		2									
				人間性の探求2	1年		2									
				人間性の探求3	1年		2									
				人間性の探求4	1年		2									
				哲学1	1年		2									
				哲学2	1年		2									
				宗教学	1年		2									
				心理学1	1年		2									
				心理学2	1年		2									
				心理学3	1年		2									
				倫理学1	1年		2									
				倫理学2	1年		2									
				倫理学3	1年		2									
				倫理学4	1年		2									
				自然の認識	自然系広領域1	1年		2								
					自然系広領域2	1年		2								
			自然系広領域3		1年		2									
			自然系広領域4		1年		2									
			自然系広領域5		1年		2									
			自然科学講義1		1年		2									
			自然科学講義2		1年		2									
			自然科学講義3		1年		2									
			自然科学講義4	1年		2										



基礎となる学部(生命薬科学科)の教育課程

授業科目等の概要	授業科目の名称	配当年次	単位数又は時間数			専任教員配置					
			必修	選択	自由	教授	助教授	講師	助手		
全学教養教育科目	物理学	物理学基礎	1年	2							
		物理学基礎	1年	2							
		物理学基礎	1年		2						
		物理学基礎	1年		2						
	化学	基礎化学	1年	2							
		基礎化学	1年	2							
		物理化学	1年		2						
		化学分光学	1年		2						
	基礎科目	生物学	生体分子化学	1年		2					
			基礎生物学	1年	2						
			生物化学	1年	2						
			動物発生学	1年		2					
	実験	植物生命科学	1年		2						
		自然科学実験	1年	1							
	数学	自然科学実験	1年	1							
		微分積分学	1年		2						
	統計学	微分積分学	1年		2						
		線形代数学	1年		2						
	情報	統計学	1年		2						
		計算機概論A	1年		2						
	英語	コミュニケーション英語	1年	1							
		コミュニケーション英語	1年	1							
		総合英語	1年	1							
		上級英語	1年		1						
		上級英語	1年		1						
		カレント・トピックス	1年			1					
	外国語科目	カレント・トピックス	1年			1					
		ドイツ語A	1年		1						
	未修外国語	ドイツ語B	1年		1						
		フランス語A	1年		1						
		フランス語B	1年		1						
		中国語A	1年		1						
中国語B		1年		1							
日本語A		1年			1						
日本語B		1年			1						
(健康・スポーツ科目)		健康・スポーツ科学論(含演習)	1年	2							
健康・スポーツ実技	1年	1									

基礎となる学部(生命薬科学科)の教育課程

授業科目等の概要	授業科目の名称	配当年次	単位数又は時間数			専任教員配置			
			必修	選択	自由	教授	助教授	講師	助手
授業科目等の概要 専門教育科目 基礎薬学科目	薬学概論	2前	2						
	機能形態学	2前	2						
	薬学物理化学 (熱力学、相平衡)	2前	2			1			
	薬学物理化学 (量子・統計力学)	2前	2			1			
	薬学物理化学 (溶液論、界面科学)	2後		2			1		
	構造生物学	2後		2				1	
	薬品分析化学	2前	2						
	機器分析化学	2後		2					
	薬学有機化学 (基礎有機化学)	1後	2					1	
	薬学有機化学 (基本官能基の有機化学)	2前	2						
	薬学有機化学 (カルボニル化合物の有機化学)	2前	2						
	薬学有機化学IV (芳香族化合物の有機化学)	2後	2			1			
	薬学無機化学	2前	1						
	物理分析化学 (有機構造化学)	2後		2					
	薬品製造化学 (生体有機化学)	3前		2					
	薬品合成化学 (多官能性化合物の有機化学)	3前		2					
	薬化学 (薬品有機化学)	3前		2					
	基礎生物化学	1後	2						
	生物薬品化学 (細胞を構成する高分子と分子生物学)	2前	2						
	生物薬品化学 (代謝と生体エネルギー)	2後		2					
	衛生化学 (栄養素とエネルギー代謝、化学物質と毒性)	2前	2						
衛生化学 (食品衛生、環境衛生)	3後		2						
微生物薬品学 (基礎微生物学)	2後	2			1				
微生物薬品学 (応用・病原微生物学)	3前		2			1			

基礎となる学部(生命薬科学科)の教育課程

授業科目等の概要	授業科目の名称	配当年次	単位数又は時間数			専任教員配置			
			必修	選択	自由	教授	助教授	講師	助手
授業科目等の概要 専門教育科目 基礎薬学科目	薬用植物学	2前	1						
	生薬学I (生薬学総論と生薬各論)	2後	2						
	生薬学II (天然由来の生理活性化合物)	3前		2					
	医薬品代謝学	3前	2						
	放射医療学	3後		1					
	薬理・毒性学 (薬の効くプロセス)	2後	2						
	薬理・毒性学 (薬の効くプロセス)	3前	2						
	薬理・毒性学 (薬の効くプロセス)	3前		2					
	薬理・毒性学 (薬の効くプロセス)	3後		2					
	薬剤学 (薬物動態の基礎と速度論)	2前	2						
	薬剤学 (薬物動態の生理・分子機構)	3後		2					
	製剤学	2前	2						
	製剤学	3後		2					
	免疫学	3後		2					
	病態生化学	2後	1						
	放射薬品学	3後	1				1		
	医薬品情報学	3前	1						
	医療経済学	3後		1					
	生物統計学	3後		1					
	薬事関連法・制度	3後		1					
薬学英语	2前		1						
薬学英语	2後		1						
薬学英语	3前		1						
薬学英语IV	3後		1						

基礎となる学部(生命薬科学科)の教育課程

	授業科目の名称	配当年次	単位数又は時間数			専任教員配置						
			必修	選択	自由	教授	助教授	講師	助手			
授業科目等の概要	生命薬科学科目	生命有機化学	3後		1							
		医薬品化学	3後		1							
		コロイド・高分子科学	3後		1				1			
		バイオインフォマティクス	3後		1							
		ケミカルバイオロジー	3後		1							
		合成戦略化学	3後		1							
		分子感染症学	3後		1							
		分子薬理学・神経科学	3後		1							
		ドラッグデリバリー論	3後		1							
		創薬科学・知的財産活用論	3後		1							
		分子病態学	3後		1							
	演習科目	薬学情報処理演習	3後		1				1			
		プレゼンテーション演習	3後	1								
		生命薬科学演習	4		2							
	基礎薬学実習科目	物理系実習I (薬品物理化学実習)	物理系実習I (薬品物理化学実習)	2後	1							
			物理系実習II (薬品分析化学実習)	2後	1							
			物理系実習III (生物物理学実習)	2後	1						1	
			化学系実習I (基礎有機化学実習)	2後	1							
			化学系実習II (合成化学実習)	2後	1							
			化学系実習III (生薬学・構造化学実習)	2後	1							
			生物系実習I (生化学実習)	3前	1							
			生物系実習II (衛生化学・微生物学実習)	3前	1						1	
			生物系実習III (医薬品代謝学実習)	3前	1							
			医療機能系実習I (薬理学実習)	3前	1							
			医療機能系実習II (薬剤学実習)	3前	1							
			医療機能系実習III (製剤学実習)	3前	1							
			卒業研究実習	4	10							

## シ 入学者選抜の概要

大学院博士前期課程への進学を行おうという学生については、以下のようなアドミッション・ポリシーをもって受け入れる。一定の学力を有していることのみならず、知的好奇心に富み、大学院において研究に打ち込むことで研究者としての基礎能力を十分に身につけようという意欲を有し、将来研究者として社会で活躍することを目指す学生を研究科は受け入れる。また、多様な人材を求める。このような学生受け入れを行うために、以下のような入学者選抜試験を実施する。

一般入試においては、英語と専門科目における筆記試験において、学力を評価し、また面接試験において、大学院に望む意欲や自身の将来構想、コミュニケーション能力など適性評価を行った上で、総合的に評価し、合否を判定する。

一般入試に加えて新たに推薦入試を実施する。推薦入試では、志望専攻分野関連の口頭試問を含む面接試験により、大学院に望む意欲や自身の将来構想、コミュニケーション能力などと学力を含めて適性を評価することに重点を置きつつ、学部での学業成績等も加味して総合的に合否を判定する。このようにして、多様な観点からの学力及び適性評価による学生選抜を行う。また、薬系大学・学部以外からも学生を募り、人材の多様化を図るため、非薬系大学・学部の在籍者及び出身者を対象とした特別枠を推薦入試に設定する。さらに、一般入試と推薦入試の実施日を別にし、両方の入試の受験も可能とすることにより、受験機会の拡大にも配慮する。

## ス 管理運営

本薬学研究科（現在 2 専攻の博士前・後期課程）では、「名古屋市立大学大学院薬学研究科教授会規定」に基づき、研究科教授会を設け、専任の教授及び研究室の担当責任者である一部の准教授により研究科教授会は構成される。組織及び運営については、「名古屋市立大学大学院薬学研究科教授会規定」に基づき、主な審議としては博士前期・後期課程の教育・研究指導・学位審査に関する事項を扱っている。研究科教授会の下に大学院教務委員会が置かれ、大学院教務に関する実質的審議を行う。

次に、学部分掌事務については、「公立大学法人名古屋市立大学の組織等に関する規定」の「第 2 章 組織及びその分掌事務（学部等の事務室）第 4 条」で次の通り定めている。

（ 1 ）教授会その他の会議に関すること。（ 2 ）修学指導に関すること。（ 3 ）学位に関すること。（ 4 ）就職の斡旋に関すること。（ 5 ）学生の健康診断の実施に関すること。（ 6 ）大学院研究科に関すること。（ 7 ）学部及び大学院研究科の施設の警備に関すること。（ 8 ）その他学部の事務に関すること。

これらの事務を担当する組織は事務長を筆頭とし、学務係長、事務職員で構成された薬学事務室となっている。

## セ 自己点検・評価

大学における教員の職務である教育、研究、社会貢献、管理運営は一体のものであり、その特定の側面だけを取り出して評価することは適切ではない。平成 20 年度に、薬学研究科では、教員個人評価においては、それぞれの教員が自らの職の性質と職責に応じて、教育領域、研究領域、社会貢献領域、管理運営領域を総合的に、かつ自己評価を基礎として評価することを原則とすることを決めた。これに基づき、平成 20 年度に、平成 19 年度の各教員の活動を対象として本評価基準を適用し、教員の個人評価のトライアルを実施した。本トライアルは、教員の個人評価の初めての数

値化である。現在、評価結果の検証と評価制度の確定を行っており、今後、平成 20 年度および平成 21 年度の活動を対象にした個人評価を実施する予定である。これらの結果は、平成 22 年度に予定されている大学評価・学位授与機構による大学機関別認証評価における薬学部教員の個人評価のための資料となる。

今回申請する大学院薬学研究科博士前期課程においても、この一連の評価システムを適応して、教員の職務である教育、研究、社会貢献、管理運営について、教員自身による個人評価（自己評価）を行っていく予定である。適切な個人評価が、教員の資質の向上をもたらし、結果として大学（院）における教育および研究の質の向上につながると考える。

#### （１）薬学研究科の自己点検・評価の体制

薬学研究科・薬学部では、平成 11 年度に「自己評価検討委員会」を設置し、以来、自己評価報告書の刊行にあたってきた。「自己評価検討委員会」は、平成 19 年度に「自己評価・第三者評価等検討委員会」となり、従来の自己点検・評価に加え、薬学教育第三者評価、さらには、個人評価についても、評価方法の検討、評価の実施などを担当することになった。平成 19 年度には、平成 17 年度から平成 19 年度についての自己点検・評価報告書を作成するとともに、平成 19 年度分について評価のための資料の集約を行った。教員は、厳格で客観的な視点に基づいて自ら点検・評価し、またその結果を公表するとともに、教育・研究活動の改善などに活用して行かねばならない。「自己評価・第三者評価等検討委員会」は、適正な評価を実施するための基礎として、平成 19 年度版自己点検・評価報告書を作成した。

#### （２）個人評価の体制

平成 18 年度からはじまった新しい薬学教育制度の下で、創薬生命科学分野での優れた人材を育成し、先進的な研究成果を発信していくことが薬学研究科の使命であり、この使命を達成し、少なくとも中部地域での中核的な薬学の教育研究機関として発展していくことが本研究科の目標である。厳しい競争的環境のもとでこのような使命を達成するためには、研究科を構成する個々の教員が厳しい自己評価に基づく自律的な努力を積み重ねることが何よりも求められている。

本評価制度は、このような自己評価をより客観的にかつ継続的に実施するためのシステムを構築し、客観的な個人評価を行うことを通じて、個々の教員の教育研究活動を活性化し、もって研究科の教育・研究機能の向上につなげることを目的とする。

#### 評価の対象

評価の対象は、以下の 4 領域とする。

- 教育
- 研究
- 社会貢献
- 本学の管理・運営

#### 評価の期間

3 年に 1 度行う。

#### 評価の基準

「個人評価に係わる評価基準」を作成し、事前に絶対的な基準を提示することはない。

#### 評価の方法

1. 教員自身が、領域ごとに自己評価すなわち自分で評価（点）を決めるようにする。  
評価（点）は5段階とする。
2. 教員自身が、領域ごとに重み付けを行います。重み付けは、4領域の合計が20になるように決める。  
ただし、職責に応じた評価を行うために、職責に応じてそれぞれ領域の最低値を定める。

#### 総合評価

- 総合評価（点）は、100点満点とする。
- 総合評価（点）は、{「領域ごとの評価点（5点満点）」×「領域ごとの重み付け点」} で計算し、5段階評価を行う。

#### 評価委員会の任務：

1. 教員が提出した自己評価用実績報告書および自己評価書に基づき評価委員会が、教員全員についての実績一覧表および評価一覧表を作成する。必要に応じて、領域ごとの評価の一覧表、全体評価の一覧表、職責ごとの一覧表なども作成する。
2. 教員に、実績一覧表における本人の位置を通知するための資料を作る。
3. 教員各人の評価の重み付けの妥当性を評価するための資料を作る。
4. これらをまとめ、研究科長に提出する。

#### 最終評価

- 研究科長は、教員に実績一覧表における相対的位置を通知する。
- 研究科長は、教員各人の評価の重み付けの妥当性を評価する。
- 研究科長は、最終評価を行う。

#### ソ 情報の提供

大学院の理念・目的，カリキュラム，シラバス，専任教員のプロフィール・研究成果・教育活動については、薬学研究科独自に説明パンフレット（カラー版 37ページ）を毎年1500部作成し、適宜配布することにより行う。また、薬学部・薬学部ホームページにおいても、ほぼ同内容の情報を公開している。（<http://www.phar.nagoya-cu.ac.jp/>）

さらに大学の基本的な情報（定員，学生数，教員数等）および自己点検評価書、一部の規定については、大学のホームページで提供している（<http://www.nagoya-cu.ac.jp/>）。

市民公開講座において、毎年薬学に関連した講演を3講演ずつ行い、市民に情報を提供している。

#### タ 教員の資質の維持向上の方策

各授業において授業アンケートを必ず行い、その結果を踏まえて次年度の授業の改善に努めることで、各教員の教育能力の向上を図る。FD (Faculty Development)の一環として、月に1回、主に薬学研究科若手教員による講演会を開催している。また、教育方法等に関するワークショップも

定期的に開催し、FD を多面的に行っていく。今後とも引き続き、FD の実施方法やフィードバックの方法について検討を行い、充実を図ることで高度な大学院教育体制の確立を目指す。また教員の個人評価を実施し、自己点検に努める。さらに、研究面においても、学会等への出席により知識・見識を高めることを目的として、一定の国内及び海外の学会への派遣費を確保する。

現在、教授職全員に任期制（7年任期、再任有り）を取り入れており、資質の維持向上に役立っている。



## 教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
.	学長	ニシノ ヒトオ 西野 仁雄 <平成22年4月>		医学博士		名古屋市立大学 学長 (平成18年4月)

別記様式第3号(その2の1)

教 員 の 氏 名 等												
(名古屋市立大学 大学院薬学研究科 創薬生命科学専攻)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等の 職務に従事する 週当たり平均日数
	専	教授	ミヤ ナオキ 宮田 直樹 <平成22年4月>		薬学 博士		薬化学特論 創薬生命科学基礎 医薬化学特別演習 医薬化学特別研究	1・2前後 1・2前前 1-2通 1-2通	0.5 0.12 4 4	1 1 1 1	名古屋市立大学 大学院薬学研究科 教授 (平成14年4月)	5日
	専	教授	ヒゲチ ツネコ 樋口 恒彦 <平成22年4月>		薬学 博士		精密有機反応学特論 創薬生命科学基礎 医薬化学特別演習 医薬化学特別研究	1・2前後 1・2前前 1-2通 1-2通	0.5 0.12 4 4	1 1 1 1	名古屋市立大学 大学院薬学研究科 教授 (平成14年4月)	5日
	専	教授	オダツマ 和久 小田嶋 和徳 <平成22年4月>		薬学 博士		機能分子構造学特論 創薬生命科学基礎 医薬化学特別演習 医薬化学特別研究	1・2後後 1・2前前 1-2通 1-2通	0.5 0.12 4 4	1 1 1 1	名古屋市立大学 大学院薬学研究科 教授 (平成14年4月)	5日
	専	教授	ヒラシマ ナオキ 平嶋 尚英 <平成22年4月>		博士 (薬学)		生体超分子システム解析学特論 創薬生命科学基礎 生命分子薬学特別演習 生命分子薬学特別研究	1・2前後 1・2前前 1-2通 1-2通	0.5 0.1 4 4	1 1 1 1	名古屋市立大学 大学院薬学研究科 教授 (平成18年4月)	5日
	専	教授	ヤマナカ ジュンハイ 山中 淳平 <平成22年4月>		博士 (工学)		コロイド・高分子物性学特論 創薬生命科学基礎 生命分子薬学特別演習 生命分子薬学特別研究	1・2前後 1・2前前 1-2通 1-2通	0.5 0.1 4 4	1 1 1 1	名古屋市立大学 大学院薬学研究科 教授 (平成21年4月)	5日
	専	教授 (理事)	イマガワ マサヨシ 今川 正良 <平成22年4月>		薬学 博士		分子生物薬学特論 創薬生命科学基礎 生命分子薬学特別演習 生命分子薬学特別研究	1・2後後 1・2前前 1-2通 1-2通	0.5 0.1 4 4	1 1 1 1	名古屋市立大学 大学院薬学研究科 教授 (平成14年4月)	5日
	専	教授	オセキ テツヤ 尾関 哲也 <平成22年4月>		博士 (薬学)		薬物送達学特論 創薬生命科学基礎 生命分子薬学特別演習 生命分子薬学特別研究	1・2前後 1・2前前 1-2通 1-2通	1 0.2 4 4	1 1 1 1	東京薬科大学 薬学部 准教授 (平成19年4月) 名古屋市立大学 大学院薬学研究科 教授 (平成21年6月)	5日
	専	教授	ミズガ ハジメ 水上 元 <平成22年4月>		薬学 博士		生薬学特論 創薬生命科学基礎 医療分子機能薬学特別演習 医療分子機能薬学特別研究	1・2前後 1・2前前 1-2通 1-2通	0.5 0.1 4 4	1 1 1 1	名古屋市立大学 大学院薬学研究科 教授 (平成14年8月)	5日
	専	教授	オノガキ キクオ 小野寺 菊夫 <平成22年4月>		薬学 博士		生体防御機能学特論 創薬生命科学基礎 医療分子機能薬学特別演習 医療分子機能薬学特別研究	1・2後後 1・2前前 1-2通 1-2通	0.5 0.1 4 4	1 1 1 1	名古屋市立大学 大学院薬学研究科 教授 (平成14年4月)	5日
	専	教授	ホシノ シンイチ 星野 真一 <平成22年4月>		博士 (薬学)		遺伝情報学特論 創薬生命科学基礎 医療分子機能薬学特別演習 医療分子機能薬学特別研究	1・2後前 1・2前前 1-2通 1-2通	0.5 0.1 4 4	1 1 1 1	名古屋市立大学 大学院薬学研究科 教授 (平成17年4月)	5日
	専	教授	イライミ ユウジ 今泉 祐治 <平成22年4月>		薬学 博士		細胞分子薬効解析学特論 創薬生命科学基礎 医療分子機能薬学特別演習 医療分子機能薬学特別研究	1・2前後 1・2前前 1-2通 1-2通	0.5 0.1 4 4	1 1 1 1	名古屋市立大学 大学院薬学研究科 教授 (平成14年4月)	5日
	専	教授	ハツリ ミツル 服部 光治 <平成22年4月>		博士 (薬学)		病態生化学特論 創薬生命科学基礎 医療分子機能薬学特別演習 医療分子機能薬学特別研究	1・2前後 1・2前前 1-2通 1-2通	0.7 0.14 4 4	1 1 1 1	名古屋市立大学 大学院薬学研究科 教授 (平成21年4月)	5日
	専	教授	ウサヒロキ 湯浅 博昭 <平成22年4月>		薬学 博士		薬物動態制御学特論 創薬生命科学基礎 医療薬学特別演習 医療薬学特別研究	1・2後前 1・2前前 1-2通 1-2通	0.5 0.08 4 4	1 1 1 1	名古屋市立大学 大学院薬学研究科 教授 (平成14年4月)	5日
	専	教授	フジイ サツ 藤井 聡 <平成22年4月>		医学 博士		病態解析学特論 創薬生命科学基礎 医療薬学特別演習 医療薬学特別研究	1・2前後 1・2前前 1-2通 1-2通	0.5 0.08 4 4	1 1 1 1	名古屋市立大学 大学院薬学研究科 教授 (平成19年3月)	5日
	専	教授	ハヤシ ヒデトシ 林 秀敏 <平成22年4月>		薬学 博士		医薬品代謝解析学特論 創薬生命科学基礎 医療薬学特別演習 医療薬学特別研究	1・2後後 1・2前前 1-2通 1-2通	1 0.17 4 4	1 1 1 1	名古屋市立大学 大学院薬学研究科 教授 (平成20年4月)	5日

## 別記様式第3号(その2の1)

教 員 の 氏 名 等												
(名古屋市立大学 大学院薬学研究科 創薬生命科学専攻)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等の 職務に従事する 週当たり平均日数
	専	教授	オノ ヒデキ 小野 秀樹 <平成22年4月>		薬学 博士		中枢神経機能薬理学特論 創薬生命科学基礎 医療薬学特別演習 医療薬学特別研究	1・2前後 1・2前前 1-2通 1-2通	0.5 0.08 4 4	1 1 1 1	名古屋市立大学 大学院薬学研究科 教授 (平成14年4月)	5日
	専	教授	スギ タカシ 鈴木 匡 <平成22年4月>		薬学 博士		臨床薬学特論 創薬生命科学基礎 医療薬学特別演習 医療薬学特別研究	1・2後後 1・2前前 1-2通 1-2通	0.6 0.1 4 4	1 1 1 1	名古屋市立大学 大学院薬学研究科 教授 (平成21年2月)	5日
	専	教授	クロノ ヒサシ 黒野 幸久 <平成22年4月>		薬学 博士		病院薬剤学特論 創薬生命科学基礎 医療薬学特別演習 医療薬学特別研究	1・2後前 1・2前前 1-2通 1-2通	0.3 0.05 4 4	1 1 1 1	名古屋市立大学 大学院薬学研究科 教授 (平成20年10月)	5日
	専	准教授	ナカガキ ヒロコ 中川 秀彦 <平成22年4月>		博士 (薬学)		薬化学特論 創薬生命科学基礎 医療化学特別演習 医療化学特別研究	前 1・2前前 1-2通 1-2通	0.3 0.08 4 4	1 1 1 1	名古屋市立大学 大学院薬学研究科 准教授 (平成16年5月)	5日
	専	准教授	ウメザリ ナホキ 梅澤 直樹 <平成22年4月>		博士 (薬学)		精密有機反応学特論 創薬生命科学基礎 医療化学特別演習 医療化学特別研究	1・2前後 1・2前前 1-2通 1-2通	0.3 0.08 4 4	1 1 1 1	名古屋市立大学 大学院薬学研究科 准教授 (平成19年6月)	5日
	専	准教授	コドウ カズヒロ 近藤 和弘 <平成22年4月>		博士 (薬学)		薬品合成化学特論 創薬生命科学基礎 医療化学特別演習 医療化学特別研究	1・2後前 1・2前前 1-2通 1-2通	1 0.25 4 4	1 1 1 1	名古屋市立大学 大学院薬学研究科 准教授 (平成14年9月)	5日
	専	准教授	イケダ シンイチ 池田 慎一 <平成22年4月>		博士 (工学)		機能分子構造学特論 創薬生命科学基礎 医療化学特別演習 医療化学特別研究	1・2後後 1・2前前 1-2通 1-2通	0.3 0.08 4 4	1 1 1 1	名古屋市立大学 大学院薬学研究科 准教授 (平成14年4月)	5日
	専	准教授	タナカ マサコ 田中 正彦 <平成22年4月>		博士 (薬学)		生体超分子システム解析学特論 創薬生命科学基礎 生命分子薬学特別演習 生命分子薬学特別研究	1・2前後 1・2前前 1-2通 1-2通	0.3 0.06 4 4	1 1 1 1	名古屋市立大学 大学院薬学研究科 准教授 (平成18年5月)	5日
	専	准教授	ミズノ ツネヒロ 水島 恒裕 <平成22年4月>		博士 (理学)		生命分子構造学特論 創薬生命科学基礎 生命分子薬学特別演習 生命分子薬学特別研究	1・2後前 1・2前前 1-2通 1-2通	0.3 0.06 4 4	1 1 1 1	名古屋市立大学 大学院薬学研究科 准教授 (平成20年4月)	5日
	専	准教授	オサダ シゲヒロ 長田 茂宏 <平成22年4月>		博士 (薬学)		分子生物薬学特論 創薬生命科学基礎 生命分子薬学特別演習 生命分子薬学特別研究	1・2後後 1・2前前 1-2通 1-2通	0.3 0.06 4 4	1 1 1 1	名古屋市立大学 大学院薬学研究科 准教授 (平成17年6月)	5日
	専	准教授	マキノ トシアキ 牧野 利明 <平成22年4月>		博士 (薬学)		生薬学特論 創薬生命科学基礎 医療分子機能薬学特別演習 医療分子機能薬学特別研究	1・2前後 1・2前前 1-2通 1-2通	0.3 0.06 4 4	1 1 1 1	名古屋市立大学 大学院薬学研究科 准教授 (平成19年4月)	5日
	専	准教授	タケイ タケマサ 滝井 猛将 <平成22年4月>		博士 (薬学)		生体防御機能学特論 創薬生命科学基礎 医療分子機能薬学特別演習 医療分子機能薬学特別研究	1・2後後 1・2前前 1-2通 1-2通	0.3 0.06 4 4	1 1 1 1	名古屋市立大学 大学院薬学研究科 准教授 (平成20年6月)	5日
	専	准教授	フジイ ヨシイチ 藤井 陽一 <平成22年4月>		獣医学 博士		遺伝情報学特論 創薬生命科学基礎 医療分子機能薬学特別演習 医療分子機能薬学特別研究	1・2後前 1・2前前 1-2通 1-2通	0.3 0.06 4 4	1 1 1 1	名古屋市立大学 大学院薬学研究科 准教授 (平成14年4月)	5日
	専	准教授	オオヤ ススム 大矢 進 <平成22年4月>		博士 (薬学)		細胞分子薬効解析学特論 創薬生命科学基礎 医療分子機能薬学特別演習 医療分子機能薬学特別研究	1・2前後 1・2前前 1-2通 1-2通	0.3 0.06 4 4	1 1 1 1	名古屋市立大学 大学院薬学研究科 准教授 (平成17年4月)	5日
	専	准教授	イノウエ カズキ 井上 勝央 <平成22年4月>		博士 (薬学)		薬物動態制御学特論 創薬生命科学基礎 医療薬学特別演習 医療薬学特別研究	1・2後前 1・2前前 1-2通 1-2通	0.3 0.05 4 4	1 1 1 1	名古屋市立大学 大学院薬学研究科 准教授 (平成19年10月)	5日
	専	准教授	ハセモト ノリオ 橋本 紀夫 <平成22年4月>		薬学 博士		病態解析学特論 創薬生命科学基礎 医療薬学特別演習 医療薬学特別研究	1・2前後 1・2前前 1-2通 1-2通	0.3 0.05 4 4	1 1 1 1	名古屋市立大学 大学院薬学研究科 准教授 (平成14年4月)	5日

別記様式第3号(その2の1)

教 員 の 氏 名 等												
(名古屋市立大学 大学院薬学研究科 創薬生命科学専攻)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等の 職務に従事する 週当たり平均日数
	専	准教授	タナミツオ 田邊 光男 <平成22年4月>		博士 (薬学)		中枢神経機能薬理学特論 創薬生命科学基礎 医療薬学特別演習 医療薬学特別研究	1・2前後 1・2前前 1-2通 1-2通	0.3 0.05 4 4	1 1 1 1	名古屋市立大学 大学院薬学研究科 准教授 (平成14年9月)	5日
	専	講師	スギキタヨシ 鈴木 孝禎 <平成22年4月>		博士 (薬学)		薬化学特論 創薬生命科学基礎 医薬化学特別演習 医薬化学特別研究	前 1・2前前 1-2通 1-2通	0.2 0.05 2 4	1 1 1 1	名古屋市立大学 大学院薬学研究科 講師 (平成21年4月)	5日
	専	講師	シライナヒロ 白井 直洋 <平成22年4月>		薬学 博士		機能分子構造学特論 創薬生命科学基礎 医薬化学特別演習 医薬化学特別研究	1・2後後 1・2前前 1-2通 1-2通	0.2 0.05 2 4	1 1 1 1	名古屋市立大学 大学院薬学研究科 講師 (平成14年4月)	5日
	専	講師	ミタケイム 宮田 勇 <平成22年4月>		薬学 博士		コロイド・高分子物性学特論 創薬生命科学基礎 生命分子薬学特別演習 生命分子薬学特別研究	1・2前後 1・2前前 1-2通 1-2通	0.3 0.06 2 4	1 1 1 1	名古屋市立大学 大学院薬学研究科 講師 (平成17年4月)	5日
	専	講師	ニツカマコ 西塚 誠 <平成22年4月>		博士 (薬学)		分子生物薬学特論 創薬生命科学基礎 生命分子薬学特別演習 生命分子薬学特別研究	1・2後後 1・2前前 1-2通 1-2通	0.2 0.04 2 4	1 1 1 1	名古屋市立大学 大学院薬学研究科 講師 (平成21年4月)	5日
	専	講師	ヤマラヒサオ 山村 壽男 <平成22年4月>		博士 (薬学)		細胞分子薬効解析学特論 創薬生命科学基礎 医療分子機能薬学特別演習 医療分子機能薬学特別研究	1・2前後 1・2前前 1-2通 1-2通	0.2 0.04 2 4	1 1 1 1	名古屋市立大学 大学院薬学研究科 講師 (平成21年4月)	5日
	専	講師	マエダヤシロ 前田 康博 <平成22年4月>		博士 (薬学)		病院薬剤学特論 創薬生命科学基礎 医療薬学特別演習 医療薬学特別研究	1・2後前 1・2前前 1-2通 1-2通	0.2 0.03 2 4	1 1 1 1	名古屋市立大学 大学院薬学研究科 講師 (平成20年4月)	5日
	専	講師	マエダトル 前田 徹 <平成22年4月>		博士 (医学)		臨床薬学特論 創薬生命科学基礎 医療薬学特別演習 医療薬学特別研究	1・2後後 1・2前前 1-2通 1-2通	0.2 0.03 2 4	1 1 1 1	名古屋市立大学 大学院薬学研究科 講師 (平成19年10月)	5日
	専	講師	キチチカサ 菊池 千草 <平成22年4月>		博士 (医学)		臨床薬学特論 創薬生命科学基礎 医療薬学特別演習 医療薬学特別研究	1・2後後 1・2前前 1-2通 1-2通	0.2 0.03 2 4	1 1 1 1	名古屋市立大学 大学院薬学研究科 講師 (平成20年4月)	5日
	専	講師	クロダヨシカ 黒田 良孝 <平成22年4月>		薬学 博士		創薬生命科学基礎	1・2前前	0.04	1	名古屋市立大学 大学院薬学研究科 講師 (平成14年4月)	5日
	専	助教	カウノキ 加藤 信樹 <平成22年4月>		博士 (理学)		精密有機反応学特論 創薬生命科学基礎 医薬化学特別演習 医薬化学特別研究	1・2前後 1・2前前 1-2通 1-2通	0.2 0.05 2 1	1 1 1 1	名古屋市立大学 大学院薬学研究科 助教 (平成18年4月)	5日
	専	助教	オドロサツ 田所 哲 <平成22年4月>		修士 (薬学)		生体超分子システム解析学特論 創薬生命科学基礎 生命分子薬学特別演習 生命分子薬学特別研究	1・2前後 1・2前前 1-2通 1-2通	0.2 0.04 2 1	1 1 1 1	名古屋市立大学 大学院薬学研究科 助教 (平成18年5月)	5日
	専	助教	トヤマアキコ 豊玉 彰子 <平成22年4月>		博士 (薬学)		コロイド・高分子物性学特論 創薬生命科学基礎 生命分子薬学特別演習 生命分子薬学特別研究	1・2前後 1・2前前 1-2通 1-2通	0.2 0.04 2 1	1 1 1 1	名古屋市立大学 大学院薬学研究科 助教 (平成21年4月)	5日
	専	助教	ヤギヒロカズ 矢木 宏和 <平成22年4月>		博士 (薬学)		生命分子構造学特論 創薬生命科学基礎 生命分子薬学特別演習 生命分子薬学特別研究	1・2後前 1・2前前 1-2通 1-2通	0.2 0.04 2 1	1 1 1 1	自然科学研究機構 生理学研究所 日本学術振興会特別研究員 (平成21年4月) 名古屋市立大学 大学院薬学研究科 助教 (平成21年6月)	5日
	専	助教	テラカカサ 寺坂 和祥 <平成22年4月>		博士 (生命科 学)		生薬学特論 創薬生命科学基礎 医療分子機能薬学特別演習 医療分子機能薬学特別研究	1・2前後 1・2前前 1-2通 1-2通	0.2 0.04 2 1	1 1 1 1	名古屋市立大学 大学院薬学研究科 助教 (平成17年4月)	5日

別記様式第3号(その2の1)

教 員 の 氏 名 等												
(名古屋市立大学 大学院薬学研究科 創薬生命科学専攻)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等の 職務に従事する 週当たり平均日数
	専	助教	イトリ サトモ 伊藤 佐生智 <平成22年4月>		博士 (薬学)		生体防御機能学特論 創薬生命科学基礎 医療分子機能薬学特別演習 医療分子機能薬学特別研究	1・2後後 1・2前前 1-2通 1-2通	0.2 0.04 2 1	1 1 1 1	名古屋市立大学 大学院薬学研究科 助教 (平成21年1月)	5日
	専	助教	ホリガ ナオ 細田 直 <平成22年4月>		博士 (薬学)		遺伝情報学特論 創薬生命科学基礎 医療分子機能薬学特別演習 医療分子機能薬学特別研究	1・2後前 1・2前前 1-2通 1-2通	0.2 0.04 2 1	1 1 1 1	名古屋市立大学 大学院薬学研究科 助教 (平成18年6月)	5日
	専	助教	ハバ アツシ 馬場 敦 <平成22年4月>		博士 (薬学)		病態生化学特論 創薬生命科学基礎 医療分子機能薬学特別演習 医療分子機能薬学特別研究	1・2前後 1・2前前 1-2通 1-2通	0.3 0.06 2 1	1 1 1 1	名古屋市立大学 大学院薬学研究科 助教 (平成17年4月)	5日
	専	助教	オオタ キンヤ 太田 欣哉 <平成22年4月>		修士 (薬学)		薬物動態制御学特論 創薬生命科学基礎 医療薬学特別演習 医療薬学特別研究	1・2後前 1・2前前 1-2通 1-2通	0.2 0.03 2 1	1 1 1 1	名古屋市立大学 大学院薬学研究科 助教 (平成18年10月)	5日
	専	助教	イキ ソウイチロウ 岩城 壮一郎 <平成22年4月>		博士 (薬学)		病態解析学特論 創薬生命科学基礎 医療薬学特別演習 医療薬学特別研究	1・2前後 1・2前前 1-2通 1-2通	0.2 0.03 2 1	1 1 1 1	名古屋市立大学 大学院薬学研究科 助教 (平成19年8月)	5日
	専	助教	ヤマモト ショウハイ 山本 昇平 <平成22年4月>		修士 (薬学)		中枢神経機能薬理学特論 創薬生命科学基礎 医療薬学特別演習 医療薬学特別研究	1・2前後 1・2前前 1-2通 1-2通	0.2 0.03 2 1	1 1 1 1	名古屋市立大学 大学院薬学研究科 助教 (平成18年4月)	5日
	専	助教	ナイト トシコ 内藤 敏子 <平成22年4月>		薬学士		病院薬剤学特論 創薬生命科学基礎 医療薬学特別演習 医療薬学特別研究	1・2後前 1・2前前 1-2通 1-2通	0.2 0.03 2 1	1 1 1 1	名古屋市立大学 大学院薬学研究科 助教 (昭和53年3月)	5日
	兼任	教授	キムラ カズヲ 木村 和哲 <平成22年4月>		博士 (医学)		病院薬剤学特論 創薬生命科学基礎 医療薬学特別演習 医療薬学特別研究	1・2後前 1・2前前 1-2通 1-2通	0.3 0.05 4 4	1 1 1 1	名古屋市立大学 大学院医学研究科 教授 (平成21年4月)	
	兼任	教授	カネ コウイチ 加藤 晃一 <平成22年4月>		薬学 博士		生命分子構造学特論 創薬生命科学基礎 生命分子薬学特別演習 生命分子薬学特別研究	1・2後前 1・2前前 1-2通 1-2通	0.5 0.1 4 4	1 1 1 1	名古屋市立大学 大学院薬学研究科 特任教授 (平成14年4月)	
	兼任	客員 教授	ツルミ タツヤ 鶴見 達也 <平成22年4月>		医学 博士		創薬生命科学特別講義 生命分子薬学特別演習 生命分子薬学特別研究	1・2後 1-2通 1-2通	0.1 4 4	1 1 1	愛知県がんセンター 研究所 教授 (平成9年4月)	
	兼任	客員 教授	ミチカ マコト 道川 誠 <平成22年4月>		博士 (医学)		創薬生命科学特別講義 医療薬学特別演習 医療薬学特別研究	1・2後 1-2通 1-2通	0.1 4 4	1 1 1	国立長寿医療センター 研究所 教授 (平成17年4月)	
	兼任	客員 准教授	キヨカガ ムサシ 京ヶ島 守 <平成22年4月>		医学 博士		創薬生命科学特別講義 生命分子薬学特別演習 生命分子薬学特別研究	1・2後 1-2通 1-2通	0.1 4 4	1 1 1	愛知県がんセンター 研究所 准教授 (平成16年4月)	
	兼任	客員 准教授	タケタ スナオ 竹下 淳 <平成22年4月>		理学 博士		創薬生命科学特別講義 医療薬学特別演習 医療薬学特別研究	1・2後 1-2通 1-2通	0.1 4 4	1 1 1	国立長寿医療センター 研究所 准教授 (平成16年4月)	